

2020年10月1日

みずほディーラーズアイ (2020年10月号)

みずほ銀行

目次

米ドル相場	2	韓国ウォン相場	9
ユーロ相場	4	台湾ドル相場	10
英ポンド相場	6	香港ドル相場	11
豪ドル相場	7	中国人民元相場	12
カナダドル相場	8	シンガポールドル相場	13
		タイバーツ相場	14
		マレーシアリング相場	15
		インドネシアルピア相場	16
		フィリピンペソ相場	17
		インドルピー相場	18

* 見通しは各ディーラーのビューに基づきます。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

米ドル相場

予想レンジ: USD/JPY 104.00 ~ 106.50

市場営業部 為替営業第二チーム 大谷 未央

■ 先月の為替相場

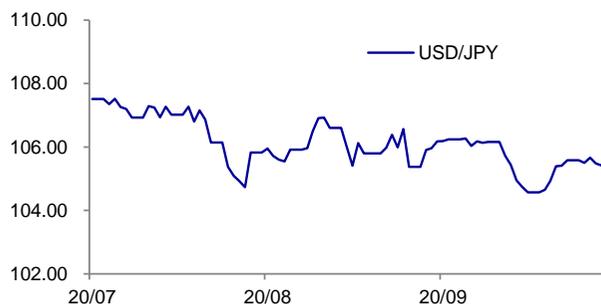
9月のドル/円相場は、月前半については106円台を中心としたレンジ相場であったが、月後半に104円台に下落する展開。
 9月1日に105円台後半でオープンしたドル/円相場は、ユーロ/ドルが1.2をつけた達成感からドル売りもピークアウト、ECB高官からのEUR高警戒感もあり数か月続いたドル売りも一転ドル買いの様相が強くなった。主要通貨でドル買いの流れとなり、3日には9月の高値である106.55円まで上昇したが、その後は実需勢のドル売りや短期勢の戻り売りに押され、上値が重い展開となった。また、ドル売りと共に進んでいた株高も9月1週目後半以降いったん調整局面となったことからリスクセンチメントはやや悪化、クロス円の下落も進んだことから結果としてドル円は106円台半ばから106円台前半まで下落した。第2週目は前週からの流れを引き継ぎ、リスク回避の円買いが優勢になり、ドル/円は週初8日に105円台後半まで下落した。しかし翌9日に英国がブレグジット協定を変更する案を議会に提出したことを受けてドル買いが強まったことや、ダウ先物や原油相場が前日比プラスで推移する動きも相俟ってドル/円は106円台前半まで値を戻した。10日は、ECB理事会においてラガルドECB総裁による「ECBはユーロ高に過剰に反応する必要はないと同意」と発言したことによりユーロ買いが強まると、ドル/円は再度105円台後半まで下落したが、その後はユーロ/円が上昇する動きに106円台前半まで値を戻した。第3週目はFOMCを前に調整売りとなり、105円台前半まで下落。16日のFOMCでは2023年まで利上げは無いとの見通しが明らかになると、ドル/円は104円台後半まで下落したが、その後インフレ見通しの上方修正等を受けてドル買いが強まると105円台前半まで値を戻した。17日は米失業保険申請件数や米8月住宅着工件数の悪化を背景にドル売りが強まると、ドル/円は再び104円台半ばまで下落した。第4週目は前週からの流れを引き継ぎじりじりと値を下げ、ついに本邦勢不在である21日にドル/円は一時9月の安値である104.00円をつけた。ただし主要通貨ではいまだドル買いとなっていたことやコロナショック以来のレベルに買い支えも見られ、104円の節目を割り切れず反転。米株価も底堅く推移し、クロス円が上昇する中ドル/円は105円台後半まで値を戻した。

■ 今月の見通し

10月のドル/円は上値重い推移を予想する。
 日米欧の金融政策の決定を9月に通過し、目立った変更がない中で否が応でも注目されるのは11月3日に投開票が予定されている米大統領選だろう。大統領選の今後の予定としては10月7日に副大統領候補の討論会が予定されており、15日・22日に2回目、3回目の大統領候補による討論会が予定されている。現状バイデン候補がやや優勢との報道が多いものの、トランプ大統領への支持率が少しずつ上がってきているという調査もあり、今後の情勢は流動的だろう。「追加減税と保護主義」対「インフラ投資と増税」と対局的にも見える双方の政策ではあるが、どちらかが勝てばドル高と割り切りが難しいと考える。ただし、不透明感を嫌う為替市場においてはバイデン氏の勝率が上がるにつれてドル安に振れる可能性には留意したい。また、大統領選とともに注目されているのが、議会選である。現状下院は民主党が過半数を確保するのが確実視されており、上院は共和党が4議席失うと共和党が過半数を割り込むことになる。例え上下院において民主党が過半数を獲得してもトランプ大統領が再選する等、大統領選挙の結果との「ねじれ」が意識されると、今後の政策運営の停滞を意識せざるを得なくドル安圧力となろう。また、金融政策については9月のFOMCにおいて当面ゼロ金利が長期にわたって維持される見通しが堅持された。コロナ後のパニック的なドル高を是正するために始めた流動性供給を続ける中、実態経済が回復の兆しを見せると必然的にドルは供給過剰となり、株高、ドル安が進行し易いと言える。また、パウエルFRB議長はFOMCや9月22日の議会証言にて先行きへの不確実性の高さを指摘し、財政出動の必要性を言及しているが、米大統領選を前に与野党の対立が激化する中、追加の経済対策が決まらないしわ寄せがFRBの追加緩和と圧力へと向かう可能性も高いと考える。以上よりドル/円は上値重い推移を予想するが、株価が堅調だという前提においてはクロス円が下げづらい構造にあり、105円アンダーでは実需の買いも見られるであろうことから104-106.50円を中心とした狭いレンジで上値重く推移すると考える。

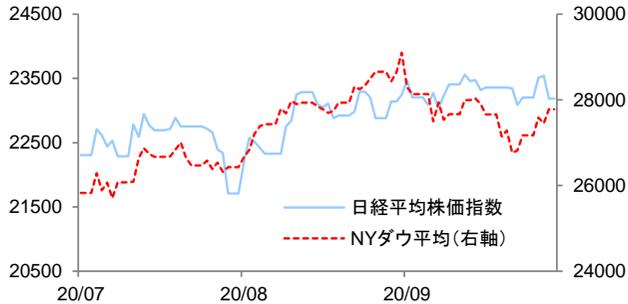
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
9/1	ISM製造業景況指数	8月	54.8	56.0	54.2
9/3	ISM非製造業指数	8月	57.0	56.9	58.1
9/4	非農業部門雇用者数変化	8月	1350k	1371k	1763k
9/4	失業率	8月	9.8%	8.4%	10.2%
9/4	平均時給(前年比)	8月	4.5%	4.7%	4.8%
9/11	消費者物価指数(前年比)	8月	1.2%	1.3%	1.0%
9/16	小売売上高速報(前月比)	8月	1.0%	0.6%	1.2%
9/17	FOMC政策金利		0.0%-0.25%	0.0%-0.25%	0.0%-0.25%
9/22	中古住宅販売件数	8月	6.00M	6.00M	5.86M%

カスタマーディーラーの相場観、注目点(本編の内容とは必ずしも一致しません)

■ドル/円 見通しまとめ

ブル	13名	107.50 ～ 104.00	ベア	8名	106.50 ～ 104.00
----	-----	-----------------------	----	----	-----------------------

※ レンジは中心値

田中	ベア	107.00 ～ 104.00	米大統領選挙が本格化も両候補接戦が予想される上、上院もどちらに転ぶか分からない状況。結果が出るまで身動きが取れない中、討論会での失点の有無を確認しながら方向感の乏しい相場展開を想定。
竹内	ベア	107.50 ～ 104.00	米大統領選挙を睨んで動き難く、結果判明が遅れるリスクも意識せざるを得ず一時的にボラティリティが高まる展開も。欧米における新型コロナ感染再拡大にも留意で、現状、経済活動停止を織り込んでいない市場は下値に脆弱か。
筒井	ブル	108.00 ～ 104.00	大統領選・上院選を通じて、米追加財政支出規模、時期が相場材料となる。機関投資家は不確定要素多く動きづらい中、ここ数か月で積み上がったドル売りポジション解消取引がドル円の主要ドライバーとなる。
加藤	ブル	109.00 ～ 104.00	米大統領選挙、さらには米中関係の行方がドル/円の先行きを決定していく状況に変化はない。また、本邦当局の姿勢に関しても、菅総理になったところで大きな変化は期待できないことからレンジ相場がづくつと見る。
山岸	ブル	107.50 ～ 104.00	北半球で気温が低下、新型コロナ感染再拡大や経済活動停滞への懸念から、先行き不透明感強く、新興国・欧州通貨を手放し、有事のドル買いの動きが強まると予想。リスク回避的に円も買われやすく、ドル円では大きな方向感が出づらいか。
牛島	ブル	107.00 ～ 104.00	9月下旬に104円をタッチしたことで下値トライは一巡。9月末の実需の売りが一服すると、ドル円は買われ易くなるだろう。5月以降は対主要通貨でドルが売られていたが、そのトレンドも転換する中、ドル円は底堅く推移すると予想。
田坂	ベア	106.50 ～ 103.50	米大統領選挙を1か月後に控えヘッドラインリスクは高まるものの、総じて主体性に欠ける動きとなる。ドル円上昇材料は特段見当たらず、世界的なコロナ感染再拡大による景気悪化懸念台頭といったリスクオフ材料には注意が必要。
尾身	ブル	109.00 ～ 104.00	緩やかにドルの買い戻しが継続すると予想。背景は、低金利政策の長期化、追加の財政政策への期待、堅調な米株相場など。米大統領選まであと1か月となるため、世論調査や公開討論会などは相場のボラティリティを高めるリスク。
上野	ベア	106.50 ～ 104.00	大統領選への注目度が高まりをみせる局面。バイデン氏となれば増税、トランプ氏となれば緩やかな財政政策が意識され、ドル円が動意を持って推移する展開にはなりにくい。一方、下げ足が速いのがドル円、リスクは下方向か。
山口	ブル	108.00 ～ 104.00	新型コロナの感染再拡大により米国の景気減速が意識されたものの、再びロックダウンが導入される可能性は低く、他先進国よりも早く持ち直す公算が高まっている。一方で、大統領選挙の本格化に伴い、値幅が出るリスクには留意したい。

甲斐	ブル	107.00 ～ 104.00	米大統領選が本格化も世論調査は直前までバイデン氏有利で変わらないと予想。前回同様に当日にトランプ氏優勢が明らかになると考え、10月中大統領選を材料とした値動きは限定的と見る。米追加財政支出動期待で緩やかに円安か。
小野崎	ブル	108.00 ～ 103.00	バイデン氏有利という状況がコンセンサスとなっはきているが2016年の大統領選を思い返すとボラティリティの高い相場への警戒感を持っておかなければならない。基本的にはポジションの大幅な積み上がりを背景にドル買いを想定
玉井	ベア	106.50 ～ 103.50	米低金利環境が継続する中、基本的にドルが売られやすい状況は継続。冬に向けた新型コロナウイルスの感染再拡大が懸念されるほか、米大統領選の不透明感も意識され上値の重い動きとなろう。
原田	ブル	107.50 ～ 104.00	ドル売りポジションが相応にたまってきていることや、米株式市場が堅調に推移していることで、ドル円は上昇しやすい環境にある。一方で、10月から本格的に米大統領選に向けて討論会が本格化する中、ボラティリティの高まりには留意。
大庭	ブル	107.00 ～ 104.00	米大統領選挙まで1か月。世論調査ではバイデン氏優勢も、4年前の記憶から市場はまだ織り込む段階に至らず10月いっぱい膠着状態が継続。105円付近を挟んだ値動きが想定されるも、米株の調整も一服し、下値は限定的か。
上遠野	ブル	108.00 ～ 104.00	新型コロナ第二波拡大懸念は熾るものの、米国をはじめとした追加の財政刺激策への期待感からサポートされよう。なお、米大統領選に向けた動きが本格化しボラティリティな展開も予想され、ヘッドラインには留意したい。
小林	ベア	106.50 ～ 104.00	米大統領選挙を11月に控え、不透明感が増していく中でのドル買いは考えづらく、上値重い展開になると予想。また米国におけるコロナの感染状況も引き続き改善が見込まれず、ドル買いに対するネガティブ要因に。
松本	ベア	106.50 ～ 104.00	前月はドルが選好される地合いが続いていたが、足元、米国には大統領選挙や追加財政支出の可否など不確定要素がくすぶる。米大統領選挙の結果については相場に織り込みづらく、方向感に欠ける展開となると予想。
逸見	ブル	107.00 ～ 104.00	米大統領選の本格化に伴い、当該トピック関連の報道に振られる展開を想定。特に、不透明感の強いバイデン候補の政策次第では、ドル高/ドル安いずれもあり得ると考える。
大谷	ベア	106.50 ～ 104.00	米国の大統領選挙を11月に控え不透明感の強い中ドル買いが進むとは考えづらく、上値重い推移を予想する。ただし株価が高値圏で推移している中ではクロス円が下げづらく、下値も限定的か。
大熊	ブル	107.00 ～ 104.00	大統領選への警戒感や米経済の下振れが懸念されるものの、欧州の新型コロナ再拡大を背景に株式市場は軟調、安全資産としてのドル買いが強まりやすく、ドル/円も底堅い展開を予想。

ユーロ相場

予想レンジ: EUR/USD 1.1500 ~ 1.1900
EUR/JPY 121.00 ~ 125.00

市場営業部 為替営業第一チーム 田中 義久

■ 先月の為替相場

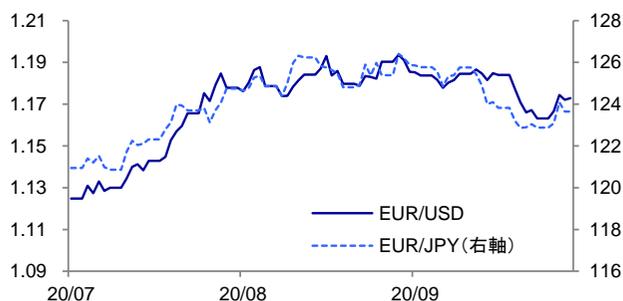
先月のユーロ/ドルは下落。月初、1.1920付近でオープン。前月の流れを引き継いだドル売りによってユーロ/ドルは1.20手前まで堅調に推移すると、2018年5月以来となる1.20台に乗せ、月高値となる1.2014まで上昇。この水準では利益確定の売りが入り1.1910付近まで反落。2日は、ユーロ売り地合いが継続し1.18台半ばまで下落。3日は、英紙からECBの追加緩和に関する観測記事が出ると、ユーロ売りが強まり1.17後半まで下落。しかし、米金利低下、米株安によってドル売りが優勢となると、1.18台半ばまで反発。4日は、米8月雇用統計の結果を受け、ユーロが下押しされる場面もあったが、結局1.18台半を推移。7日は米国休場の中、値動きの乏しい展開。8日は欧州でのコロナ感染者増加を受け株式市場が軟調に推移すると、リスクオフのドル買いが入り、1.17台半ばまで下落。9日は翌日にECB理事会を控えユーロ買いとなると1.18台前半まで上昇した。10日、ECBの結果は特段サプライズなく市場の反応も限定的。ラガルドECB総裁からユーロ高を容認するような発言がなされたことで、1.19台前半まで上昇するも、その後はノーディールブレグジット懸念が高まったことから1.18台前半まで反落。14日はドルが売られる展開に1.19手前まで上昇するも、FOMC前で様子見ムード感強く、同水準を小動き。15日はリスクオフのドル買いの巻き戻しが入り1.19台まで続伸したものの、一巡後は失速し、1.18台前半まで反落。16日は米金利の上昇に伴い再びドルが買われると1.17を割り込む場面もあったが、その後は小幅に買い戻され1.18台前半を推移。17日は欧州委員会委員長の発言によりイギリスとの貿易協定合意の可能性が示唆されると、1.18台半ばまで堅調に推移。18日はめぼしい取引材料のない中、動意に欠ける展開。21日はラガルドECB総裁からユーロ高を懸念するような発言がなされ、一時1.17前半まで下落。その後米株の下げ幅縮小によりドル買いが弱まったものの、値を戻すまではならず1.17台後半を推移。22日はイギリスで新型コロナの再感染拡大が懸念されると、欧州通貨全般が軟調地合いとなり、1.17を割り込む展開。23日も米株式市場が軟調に推移するなど、センチメントに好転が見られない中、ドル買い地合いが続き1.16台半ばまで続落。24日、1.16台を推移した後、翌25日もドル買いが強まると月安値である1.1613をつけた。28日、新規材料に欠ける中、1.16台を小確りと推移。29日、大統領候補両名による討論会を前にドル売り優勢。1.17台を回復し1.17台半ばまで上昇した。30日、注目された討論会では新たな材料出ず、1.17台前半を推移した。

■ 今月の見通し

今月のユーロ相場は、先月上旬までの上昇相場が一服し調整局面の中、米大統領選挙という大イベントを控え、上値が重いながらも神経質な相場展開が予想される。先月上旬まで上昇基調だったユーロは、欧州でのコロナ感染再拡大やBrexitの混迷化、ECB要人からのユーロ高牽制発言、米実質金利の底入れと米株価下落を受けてのドル買戻し等に調整局面にあり、方向感の見出しにくい状況にある。このような中で、いよいよ米大統領選挙が本格化するが、バイデン候補有利との観測が伝わるも隠れ支持者が多いトランプ大統領とは差はほぼ無いと思われ、蓋を開けてみなければ分からない状況。また議会上院も民主党の勝利の可能性がささやかれているが、こちらも予断を許さない。いずれもどちらに転ぶか分からず結果が出るまで身動きが取れないが、その結果も郵便投票の集計、更に僅差だった場合はお互い勝敗を認めず法廷闘争の可能性も報道され、時期の目途が立たない。いずれにせよ今月についてはあと2回の大統領候補者討論会でのバイデン・トランプ候補の失点の有無を伺いながら、様子見の展開が想定され、ドルの方向感が出難い。一方で、欧州では新型コロナ感染が再拡大し再度のロックダウンの可能性もあり、経済への悪影響が懸念される。またBrexitについては英国が既往合意を反故にする国内市場法制定に動いており、EU-英国間の信頼関係が揺らいでいる。先月末からFTA締結に向けた通商交渉が行われ月央のEU首脳会議までの合意が期待されるが、厳しい状況と言わざるを得ない。加えて、ECB高官からはインフレ下押し懸念を背景としたユーロ高牽制発言が相次いでおり、ユーロは貿易黒字を背景とした需給に支えられる一方で、これらの材料が上値を抑えることになるであろう。

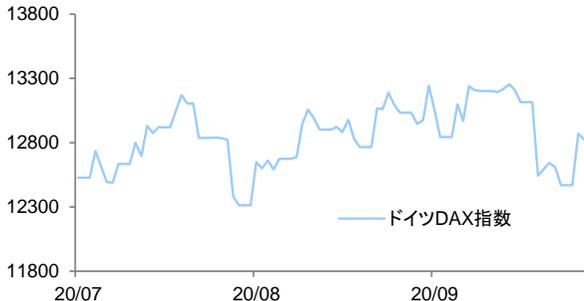
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
9/1	欧州CPI予想(前年比)	8月	0.2%	-0.2%	0.4%
9/8	GDP(季調済/前期比)	2Q	-12.1%	-11.8%	-12.1%
9/10	ECB主要政策金利	9月	0.0%	0.0%	0.0%
9/15	ZEW景気期待指数	9月	-	73.9	64
9/23	欧州マークイット製造業PMI	9月	51.9	53.7	51.7
9/23	欧州マークイットサービス業PMI	9月	50.6	47.6	50.1
9/23	欧州マークイットコンポジットPMI	9月	51.9	50.5	51.9

(資料) ブルームバーク

カスタマーディーラーの相場観、注目点(本編の内容とは必ずしも一致しません)

■ ユーロ/ドル 見通しまとめ

ブル	1名	1.2100 ～ 1.1600	ベア	20名	1.1900 ～ 1.1500
----	----	-----------------------	----	-----	-----------------------

※ レンジは中心値

田中	ベア	1.1900 ～ 1.1500	ユーロドルは上昇後の調整局面継続。予想が困難な米大統領選挙を控えドルの方向感が乏しい一方、欧州でのコロナ感染再拡大とロックダウン懸念、No Deal Brexit懸念、ECB要人のユーロ高牽制発言がユーロの上値を抑える。
竹内	ベア	1.2000 ～ 1.1500	欧米を中心に煽っている新型コロナ感染再拡大の懸念が上値を抑える要因。またBrexitに向けた行程に対する不透明感も拭えず、ユーロの上値追いは危険とみる。
筒井	ベア	1.1900 ～ 1.1100	ユーロ圏CPI関連指標に注目。コロナ感染再拡大及びデフレ進行により、ECBは更なる緩和或いはそれを示唆する発言に踏み切ると読む。ここ数か月で積み上がったドル売りポジション解消取引が進むこともユーロ安シナリオをサポート。
加藤	ベア	1.1900 ～ 1.1400	依然ユーロ調整局面がつづく。投機的なポジションの調整が根底にあり更に、新型コロナの影響はアジア圏よりも相対的に大きいことからユーロの上値は重いであろう。
山岸	ベア	1.1900 ～ 1.1500	フランスとスペインで感染者が今春を上回るペースで増加。外出制限などの規制強化で再び経済が冷え込む懸念から、ユーロは買いつらい状況。EU予算と復興基金に遅延の可能性があると、当局者のユーロ高けん制発言も上値を抑える要因。
牛島	ベア	1.2000 ～ 1.1600	ユーロロングが溜まっており、9月1日に1.20台をタッチしてから上値が重い。欧州でコロナ感染者が拡大する中、EURは積極的には買にくい。GBPやAUDが利下げ観測で売られる中、消去法的にUSDが選好されるだろう。
田坂	ベア	1.1850 ～ 1.1500	前月1.2台突破を果たし、5月中旬に開始したユーロ上昇トレンドは終了。英国を中心に欧州におけるコロナ感染拡大が深刻化する状況下、ユーロは上値重く推移しよう。
尾身	ベア	1.1800 ～ 1.1500	EUR高が抑制された状態が継続すると予想。低金利政策の長期化を受けた米株高や米国の追加財政対策への期待を背景に、ドル買い戻しが継続し、EURの上値は抑えられるのではないだろうか。
上野	ブル	1.2100 ～ 1.1600	冴えない経済、コロナ第2波、ブレグジット、そしてECB高官のEUR高けん制発言。EURを買う材料に乏しい状況が続いている認識だが、先月のリスク顕在化局面においてもほどなく反発。材料なければEURが選好される局面も。
山口	ベア	1.1900 ～ 1.1500	欧州での新型コロナウイルスの感染拡大第2波が意識され、ユーロの上値は重いと予想。再度のロックダウン実施等で経済活動の落ち込みが確認されるともう一段の下落にも警戒したい。

甲斐	ベア	1.1900 ～ 1.1500	当面は欧州感染拡大、ハードブレグジット懸念でドル高。他方で、域内最大の貿易黒字国ドイツでは感染者拡大を抑えられており、復興基金や来年成長率を踏まえれば、調整後はユーロ買いの地合いか。感染拡大懸念が収束で一段の上昇も。
小野崎	ベア	1.1800 ～ 1.1300	日米比少ない新型コロナ感染者数や復興基金への期待感から上昇してきたユーロだが、感染再拡大による経済低迷懸念は顕在化。ハードブレグジット懸念も本格化する中でユーロ買い材料は乏しい。
玉井	ベア	1.1900 ～ 1.1500	ユーロ圏では新型コロナウイルスの感染が再拡大しており、一部経済活動の制限も出てきていることから上値の重い動きとなりそう。ただ、基本的には米低金利政策下、ドルも買われづらく下値は限定的と見る。
原田	ベア	1.1850 ～ 1.1500	ドル売りに一服感が出ていることや、欧州と英国間の交渉も先が見えない中、ハードブレグジット懸念も徐々に台頭。ユーロの上値は重くなるものと見込む。
大庭	ベア	1.1850 ～ 1.1600	欧州のコロナ再拡大リスクを機にユーロからドル、円に資金が流れ始めており、上値の重い展開を予想。独CPIも予想を下回る水準と経済指標に陰りが見え始めている。ユーロ圏では再び活動規制を強化する動きも見られユーロには逆風。
上遠野	ベア	1.1800 ～ 1.1650	新型コロナ第二波懸念から上値の重い展開を継続か。加えて英国のハードブレグジット懸念もユーロの上昇を阻む要因となろう。いずれにしても、目下ポジティブ材料の少なさから下方向の動きを想定したい。
小林	ベア	1.1900 ～ 1.1500	前月1.2台を乗せたユーロ上昇トレンドが一服し、ECB高官のユーロ高けん制報道もあり、ユーロドルは上値重い展開を予想。欧州におけるコロナ感染の再拡大もユーロ買いのネガティブ要因に。
松本	ベア	1.1850 ～ 1.1500	欧州圏での新型コロナウイルス再拡大や前月に1.2をつけた達成感が意識され、今月もユーロの調整が継続か。その他、ECB要人のユーロけん制発言やブレグジット懸念等、ユーロを積極的に買う材料に乏しく、上値が重い展開を予想。
逸見	ベア	1.1800 ～ 1.1500	米金利の下落やリスクオフのドル買いに一服感が見える中、英・欧州間の交渉はブレグジット当初から平行線を辿っている問題。ソフトランディングへの期待感盛り上がりにくく、ユーロは軟調地合いを想定。
大谷	ベア	1.1850 ～ 1.1500	欧州圏において新型コロナウイルスの感染再拡大が懸念されていることからユーロ売りの展開を予想する。また、英国が通商合意なくEU離脱に陥る可能性も拭えない中ユーロは上値重く推移しよう。
大熊	ベア	1.1900 ～ 1.1500	欧州での新型コロナ感染第2波による景気停滞の長期化懸念がユーロの重しとなっている模様。1.20台まで上昇したユーロの調整余地はまだあると思われ、徐々に下値を切り下げる展開を予想する。

英ポンド相場

予想レンジ: GBP/USD 1.2400 ~ 1.3200
GBP/JPY 129.00 ~ 140.00

欧州資金部 神田 史彦

■ 先月の為替相場

先月のポンドは下落。1日、8月のドル安が続きポンドは月中高値1.3481まで上昇するスタートとなるも頭打ちとなると利益確定売りに押される。ECB(欧州中央銀行)によるユーロ高牽制発言から同タイミングでユーロも同様の値動きを見せており、ポンドはユーロにつれたと見られる。その後もポンドの巻き戻しは続き、8月中の上昇分ははき出された。英国内でEUと結んだ離脱協定を一部反故にする法案「国内市場法」が9日に英議会へ提出されると、英-EUの交渉決裂リスクが意識され、その動きを助長させた。その後ポンドは若干買い戻されたが、17日にポンドは乱高下。英中銀金融政策委員会が金融政策を据え置いた一方で「マイナス金利の導入について金融当局と運用について検討開始」と声明が出るとポンドは売られた。しかし、同日フォンデアライエン欧州委員長が英との合意に肯定的なコメントをしたことが報じられると下落分を一気に取り戻した。21日の週は新型コロナ懸念が強まりドル高に。22日にはジョンソン英首相が国民に向け新型コロナの規制を発表することもありポンド売りが強まるも、ベイリー英中銀総裁が「マイナス金利の準備には時間がかかる」と発言したことが伝わり一気に買い戻され再び乱高下。米国でのコロナ死者数が20万人を超えたことも伝わりドル需要が強まり23日には月中安値1.2676をつける。28日にラムスデン英中銀副総裁が政策金利の下限が現行の0.1%との認識を示したことでポンドは一時1.29台を回復するも、EU側から再度通商交渉への牽制発言が伝わりと上値重く推移。29日から英はEUとの通商協議最終ラウンドへ臨んでおり、ポンドは1.28台を推移しながら月末を迎えた。

■ 今月の見通し

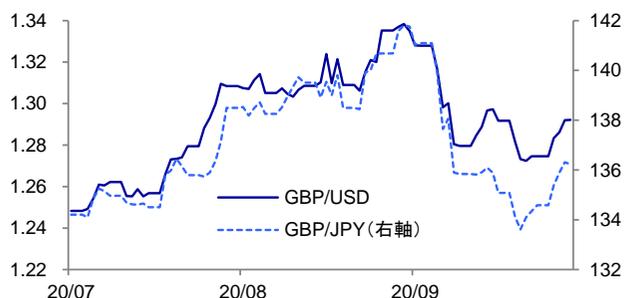
ポンドは上値重い展開を予想。注目点は引き続き英-EU交渉と世界的なドル需要の浮沈。英-EU交渉は再び佳境入り。ジョンソン英首相は15日を交渉期限と設定し、そこまでに合意できなければFTA合意なしのEUとの関係を模索する方針となっている。そのような中で英国内では「国内市場法」なる法案を審議中で、同法案が先般EUと結んだ離脱協定を一部反故にするため「国際条約に違反している」などと国際的な批判を浴びており、EU側より9月末~10月頭を目途に違反に抵触しないような修正をするように求められている。もし修正できたとしても、英政府が国際条約違反を試みた事実は拭えないため、各国とのFTA交渉に支障をきたす可能性が高くポンドの重しになるだろう。攪乱要因は今夏同様コロナ状況に依拠したドル需要。英国でも感染者数が再び増加していることを受け一部地域ではロックダウンを再導入する動きが出ている。欧州各国を見てみてもスペインやフランスで感染者数が4月のピークを超えてきているとの話も聞かれコロナ第2波が強く意識されていることを鑑みると安定したドル需要からややポンドに重し。直近では米国・インド・ブラジルの死者数が引き続き多く、米国市場でコロナリスクがより意識されると米株安、米ドル高となり、ポンド急落リスクがあることに留意。一方でコロナ収束を意識させるヘッドラインには素直にドル安・ポンド高の反応が見られるだろう。なお、10月末までの英国内での休職手当が廃止されるにあたり先月24日にスナク財相が発表した後継支援策は規模が削減された(期間は6カ月間)。手当廃止が大きなショックとはならないながらも失業率や小売り指標へ波及される翌月以降の不安因子となりうる。その場合は英中銀のマイナス金利観測に拍車をかけることになる。まずはPMIなどの先行指標に注意が必要。

『覚えておきたい、当地の言葉』

英語の母国である英国においては、もちろん多くの言い回しがあり皆色々な経験をしている。ただ1つ選ぶとすると「mate」を挙げたい。日本人の耳には「めい」と聞こえるこの単語は、もはや日本でも「チームメイト」などカタカナにもなっており市民権を得ている単語だろう。イギリスでは他人に呼びかける時に、よくこの「mate」をつける。同僚からも、チームメイトからも、郵便配達人からも、レジ打ちの人からも、レストランのウェ이터からも、トイレの修理に来たハンディマンからも、街で道を聞いてくる人からも、よく言われる。当初は「may」と言っているのかと思いき、何らかの丁寧な言い回しなのかと認識していたが、慣れてくると「mate」といっているのがわかってきた次第だ。なお、筆者も欧州生活が長くなってきたが、「mate」ではなく「friend」と呼びかけてくる人は十中八九よからぬ意図を持っていることが経験からわかってきた。皆様も西欧諸国で「friend」と呼びかけられた際は、やや注意が必要です。(あくまで個人的な経験に基づいた勝手な意見ですので、最終的なご対処は皆様のご判断でお願い申し上げます。)

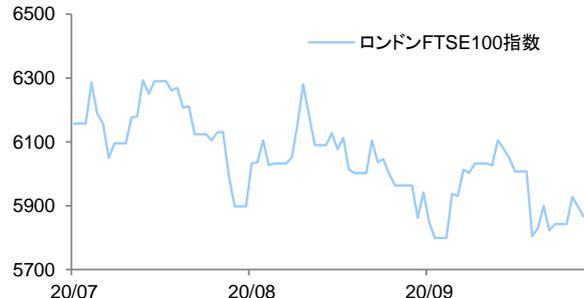
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
9/1	製造業PMI	8月	55.3	55.2	55.2
9/3	サービス業PMI	8月	60.1	58.8	58.8
9/4	建設業PMI	8月	58.3	54.6	58.1
9/11	鉱工業生産(前年比)	7月	-8.7%	-7.8%	-12.5%
9/11	GDP(前月比)	7月	6.7%	6.6%	8.7%
9/15	ILO失業率	7月	4.1%	4.1%	3.9%
9/16	消費者物価指数(前年比)	8月	0.0%	0.2%	1.0%
9/17	政策金利		0.1%	0.1%	0.1%
9/18	小売売上高(含自動車/前年比)	8月	2.7%	2.8%	1.4%
9/23	製造業PMI	9月	54.0	54.3	55.2

豪ドル相場

予想レンジ: AUD/USD 0.6900 ~ 0.7400
AUD/JPY 74.00 ~ 78.50

アジア・オセアニア資金部 シドニー室 川口 志保

■ 先月の為替相場

1日、RBAは政策金利を0.25%に据え置き、タームファンディングファシリティをA\$200bioに拡大し来年6月まで延長するとした。借り入れコスト引き下げで市中への融資促進を図る狙い。豪ドルはFRBの低金利長期化展望を背景としたドル売りや良好な中国指標に下値を支えられるも、2日に豪2Q・GDPが予想を下回り0.73台前半へ下落。3日は豪7月貿易収支が予想を下回り下落。翌日に米雇用統計を控えたドル買い調整が入り0.72台後半へ更に値を落とした。4日、良好な米8月雇用統計からドル買いを背景に更に0.72前半まで下落。但し米労働市場の僅かな回復基調で早急な政策変更は考えにくく、米低金利長期化期待が強い為いずれドル安基調に戻るとの思惑が広がり、ドル買いが一巡すると0.73近辺まで戻した。第2週は0.72台を中心に推移。8日原油急落で豪ドルも0.7211まで急落。またRBAが緊急時流動性を高める為、豪銀行は最大A\$240bioの政府債購入が必要になるとの報道があった。9日は前日の流れを継ぎ0.72を割った。10日は米新規失業保険関連の数字が相次いで経済回復鈍化を示すとドル売りが加速し0.73台へ乗せた。第3週は0.73を挟んで振幅。15日RBA議事要旨は従前通りの表現に留まり追加利下げ観測が後退。良好な中国指標も豪ドルを支え0.7340近辺まで上昇。16日FOMCでは大方予想通り2023年まで利上げなしとの見通しとなるも2023年に4人が利上げを見込んでおりインフレ見通しも今年から2022年にかけて上方修正された。これを受けドル買いで0.72台後半まで下落したが良好な豪8月雇用統計で0.73台まで反発。但し就業者数増加がパートタイムの増加に起因する等、内容が然程楽観的でないとの見方が優勢となり反落した。第4週は0.73台から0.70台へ大幅下落。21日リスク回避の流れで0.72丁度近辺まで下落。22日RBAデベル副総裁が雇用とインフレ目標達成に向けての政策手段として国債買入の年限長期化、為替介入、利下げ、マイナス金利導入について言及した。これを受けて豪地場銀行がRBAが政策金利と3年物国債利回り目標を10月か11月に各々0.25%から0.10%以上値をへ引き下げるとの見通しを示し、追加緩和期待が広がった。更に豪8月小売売上高・速報値が大幅に落ち込み0.70半ばへ下落。また、米金融当局者が追加財政支援の必要性を強調しリスク回避ムードとなり豪ドル下落に拍車をかけた。25日、追加景気対策の妥協案でペロシ下院議長とムニューシン米財務長官の協議再開の意向が伝わると、ドル買いとなり豪ドルは0.7006まで下落。最終週は28日に10月RBA理事会での利下げ予想をしていた豪銀行大手が予想を11月に後倒し変更した事で一旦下値が支えられ0.71台へ戻した。

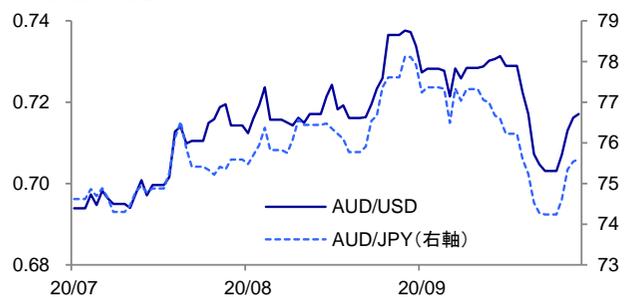
■ 今月の見通し

9月後半にあったデベルRBA副総裁の講演後、銀行大手複数行が10月もしくは11月に利下げをするとの見通しを発表する等、観測が高まっており、上値が抑えられている。仮に15bpの利下げが実行されると足下の豪ドルレートは短期的に調整され下落するとみるが、豪ドルの実質金利(=名目金利-インフレ率)の方が米国のそれよりも僅かにまだ高いとされる為、いずれ徐々に豪ドル高基調に向かうと予想する。また足下の米低金利長期化期待も根強く、今月は大統領選を控えFRBが追加緩和に今後1ヵ月で直ぐに動くとは考えにくい為、豪ドルの下値はある程度支えられよう。

10月6日にはRBA理事会による金融政策発表に加え、豪連邦予算案が発表される。予算案にどのような経済支援策が盛り込まれ、またリスクセンチメントが改善されるか注意を払いたい。ちなみに予算案発表後には豪金融監督庁(APRA)の緊急流動性規定に則し、APRAとRBAが豪銀行に国債や州債の追加購入を最大でA\$240bio要求をすると思われている。また、RBAによる金融政策に関しては、直近の債券購入再開の等の市場の反応を見ると追加金融緩和に対する売りではなく、追加経済支援という事で景気回復への期待で豪ドル買い反応している為、今回RBAにより購入枠増額などの発表があった場合は豪ドル買いで反応すると予想される。但し、RBAによる利下げがあった場合は乱高下する可能性が高く、粗い値動きには十分注意したい。

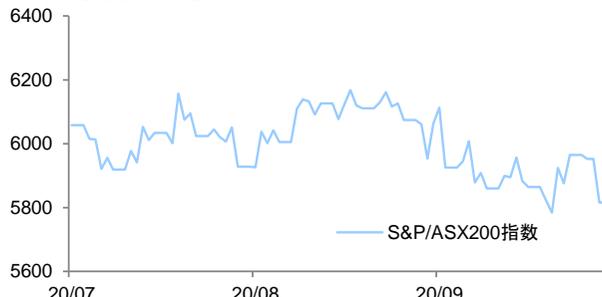
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
9/1	住宅建設許可件数(前月比)	7月	-2.0%	12.0%	-4.8%
9/1	国際収支:経常収支	2Q	A\$13.0b	A\$17.7b	A\$9.0b
9/1	RBAキャッシュレト	9月1日	0.25%	0.25%	0.25%
9/2	GDP(季調済/前期比)	2Q	-6.00%	-7.00%	-0.30%
9/3	貿易収支	7月	A\$5350m	A\$4607m	A\$149m
9/4	小売売上高(前月比)	6月	3.3%	3.2%	2.7%
9/17	雇用者数変化	8月	-35.0k	111.0k	119.2k
9/17	失業率	8月	7.7%	6.8%	7.5%

(資料) ブルームバーク

カナダドル相場

予想レンジ: USD/CAD 1.3000 ~ 1.3600
CAD/JPY 76.00 ~ 83.00

米州資金部カナダ室 金本 玲子

■ 先月の為替相場

9月のUSD/CADは1.3047でオープン。月間安値は1.2996(9/1)、月間高値は1.3416(9/25)。米株式市場高騰への警戒感および欧州におけるコロナ感染再拡大により、ドル安の流れが反転。USD/CADはコロナ前とほぼ同水準で推移。4日、米・カナダの雇用統計が発表された。カナダ8月の雇用統計は前月比24.6万人増、失業率10.2%とほぼ市場予想通り。米8月の雇用統計は失業率8.4%と市場予想9.8%を下回る大幅な改善、非農業部門の雇用者数変化も予想を上回るなど、全体的にポジティブな内容を受け止められた。指標発表直後はUSDドルが上昇したものの、株価が一時の大幅安から戻し、市場には安心感が広がったため、USD/CADは1.3050まで値を戻す。週末にかけては原油価格(WTI)が大幅に下落、週明け8日には、1バレルU\$37を割り込んだ。アジアの原油需要回復の失速、夏季ドライブシーズンの終了、主要産油国による供給増などによるもので、米株安も背景にUSD/CADは一時1.3255まで上昇した。9日のカナダ中央銀行政策決定会合では、政策金利は予想通り0.25%に据え置かれた。「政策金利はインフレターゲット2%に達するまで据え置き、また量的緩和は経済回復が軌道に乗るまで継続し、必要に応じて調整」と大きな方針変更は見られなかった。また第3四半期について、カナダ経済の回復は7月の予想よりも早いと、やや楽観的な経済見通しが示されたことで、カナダドル買いが優勢となり、USD/CADは1.31台へ下落。その後は米ハリケーン、原油価格の上昇、ワクチンへの期待、米・カナダアルミ関税撤廃などのニュースが流れるも、FOMCを控え、1.3150-1.32でレンジ推移。16日のFOMCでは長期でゼロ金利が続くこと、インフレ率は2023年末まで2%を回復しないだろうとの見通しが示された。これがハト派寄りを受け止められ、米株価は上昇、USDドル売りが強まったものの、パウエル議長の会見で追加の金融緩和に関する踏み込んだ発言はなかったことからUSDドルが持ち直す。21日、欧州におけるコロナ第二波、米株式市場の統落などにより、マーケットはリスクオフムード、USD/CADは一時1.3310まで上昇。23日、トルドー首相の施政方針演説では、個人および企業への支援の継続と拡充、政府の直接投資などにより100万人の雇用を回復させることが示された。7月時点ですでにカナダの今年度の財政赤字は3,432億カナダドルと戦後最大に達すると予測されている。演説後カナダドルは下落、USD/CADは1.3384を付けた。その後は世界的なコロナ感染再拡大懸念、米中対立激化などのヘッドラインによるリスク回避を受け、9/28時点までUSD/CADは1.3340-1.34周辺で推移している。

■ 今月の見通し

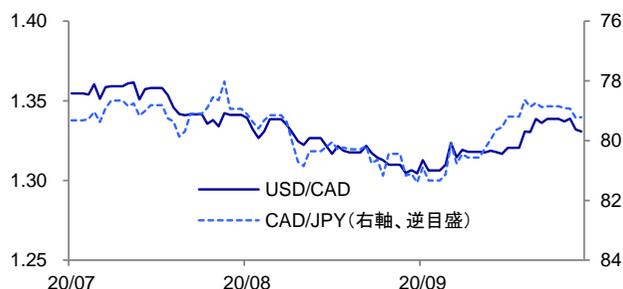
10月のUSD/CADは1.30-1.35での推移を予想する。4月後半以降、原油価格は回復、カナダ経済も基本的には順調に回復してきたが、ここへ来て経済指標の回復ペースは鈍化している。またカナダでも9月中旬から1日平均の感染者数が増加しており、政府は警戒を呼び掛けている。しかし会合人数制限の引き下げや飲食店の閉店時間の繰り上げ、罰金の引き上げなどの対策が取られており、現時点ではコロナ第二波と呼ぶほどの感染拡大には至っていない。10月28日にはカナダ中銀の政策金利決定会合が実施されるが、政策金利は維持、9月会合と比べ大きなトーンの変化はないと見られる。原油価格に関しても、需要は一時期より回復したものの、回復ペースは鈍化。需要の減退と供給超過の中で、原油価格が急激にコロナ前の水準まで回復するとは考えにくい状況。10月中は引き続き1バレルU\$40周辺での推移が続くと予想する。米大統領選挙に関しては、9/25時点でバイデン氏のやや優勢が続いている。バイデン氏が大統領となった場合でも、自国の製造業を保護する姿勢には変わりはなく、協調姿勢は重視されるものの、コロナ状況下では関税等カナダに対する通商政策に大きな差はないとみられる。またバイデン氏はKeystoneXLパイプライン建設に反対しているが、現在のトランプ政権下でも建設は差し止め中、目立った進展がないことから、バイデン大統領誕生が直ちに、直接的にカナダ経済に大きく影響を与えるとは考えにくい。それ以上に対中関係や米におけるコロナウイルスへの対策がUSD/CAD与える影響の方が大きいと考えられる。経済指標に見られる回復の鈍化はカナダに限った現象ではないが、コロナ第二波への懸念や米中関係悪化によるリスクオフムード、原油価格の上昇が期待できない中、カナダドル買いが進むシナリオは考えにくく、1.30台前半での推移を予想。むしろ中長期では、経済回復が予定通り進まなかった場合、カナダ政府の財政悪化がカナダドル安を招く可能性があると考えられる。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『覚えておきたい、当地の言葉』
カナダで夏によく使う言葉は“patio”です。レストランやカフェの屋外の席に座りたかったら、店員さんにinsideではなくpatio席をお願いしましょう。日本で言うとテラス席になるのでしょうか。気持ちの良い暑さの中、patioで過ごすのはおすすめです。またカナダでは街中で馬に乗った警察官を見かけます。王立カナダ騎馬警察と訳され、カナダ連邦政府の警察です。赤い制服と乗馬姿で親しまれているこの警察官たちのことを、カナディアンはMountie(マウンティ)の愛称で呼んでいます。カナダに来てキャッシュが必要な時には、ATMまたはABMの表記を探してください。カナダではAutomatic Banking Machineの略のABMが使われているのを見かけます。フランス語圏のケベック州に行く際は、トロントから離れて東に行くほど、よりフランス語がメインになっていきます。フランス語での挨拶やレストランでの会話などを覚えておくのが便利です。ただケベックのフランス語はケベコワ(Québécois)と呼ばれ、フランスで使われているフランス語とは発音や表現に違いがあるそうです。またケベック州で見かける看板は基本的にフランス語に訳されており、ケンタッキーフライドチキンはKFCではなくPFK、STARBUCKS COFFEEはCAFÉ STARBUCKSと表記されています。どちらもフランスでは英語圏と同じように表記されているようです。

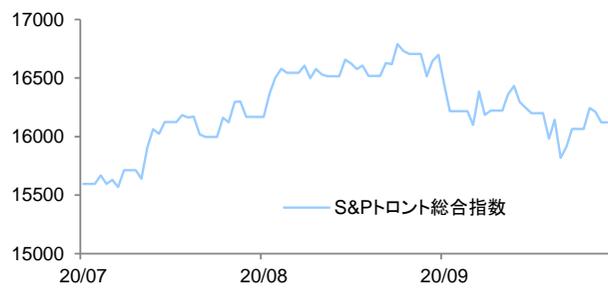
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
9/1	Markit製造業PMI	8月	-	55.1	52.9
9/3	貿易収支	7月	-2.50bn	-2.45bn	-1.59bn
9/4	ネット雇用者数変化	8月	250k	245.8k	418.5k
9/4	失業率	8月	10.2%	10.2%	10.9%
9/9	カナダ中央銀行政策金利	-	0.25%	0.25%	0.25%
9/15	製造業売上高(前月比)	7月	9.0%	7.0%	23.0%
9/16	CPI(前年比)	8月	0.4%	0.1%	0.1%
9/18	卸売上高(前月比)	7月	3.5%	4.3%	18.8%
9/18	小売売上高(前月比)	7月	1.0%	0.6%	22.7%
9/30	GDP(前年比)	7月	-5.3%	-5.0%	-7.8%

韓国ウォン相場

予想レンジ:	USD/KRW	1160	1210	(注) 100韓国ウォンあたりの対円レート
	KRW/JPY	8.696	9.174	
	JPY/KRW	10.900	11.500	

東アジア資金部ソウル資金室 中野 博文

■ 先月の為替相場

9月のドル/ウォン相場は、上値の重い展開となった。1日は1186.1でオープンすると、世界的なドル売りトレンドが1ユーロ1.2ドルを達成したことで巻き戻される中、ドル/ウォンは上値を追い展開に。4日には米株の急落を受けてリスクオフムードとなる中、KOSPIも下落し、ドル/ウォンは週高値1192.7まで上昇した。その後7日から10日にかけては、ECB理事会を控え、市場全体が様子見ムードとなる中、ドル/ウォンは既存レンジの1180～1190で動意に乏しい展開。ECB理事会通過後はややドル売りの流れになったものの、ドル/ウォンは既存レンジの1180～1190を意識した動きとなった。14日は1187.0ウォンでオープンすると、韓国国内で COVID-19の感染防止を目的とした社会的距離の確保のレベルが2.5から2.0に引き下げられたことを好感し、ドル/ウォンは下落。さらに海外時間でFOMCにおける追加緩和期待からドル売り・株高の様相となると、15日には、これまで抵抗線となっていた1180レベルを下抜けた。17日早朝のFOMC では2023年までゼロ金利政策を続けることが示唆された一方、パウエル議長の会見では景気回復には米追加景気対策が必要と示唆されたことから、市場の注目は米追加景気対策案に。しかし米追加景気対策案を巡って、共和党と民主党の隔たりは大きく可決まで時間がかかることが嫌気され、株安ドル売りの展開に。18日にはドル/ウォンの買いポジションのロスカットも入り一気に1160.1まで下落。21日も同様にドル売りとなる中、月安値1157.2まで下落した。しかし、感染拡大による英国のロックダウン再導入の可能性やグローバルな複数の銀行によるマネロン疑惑の報道が市場のセンチメントを大幅に悪化させドル買い優勢に変化すると、ドル/ウォンは月末のウォン買いフローが入っているにもかかわらず上昇。そのまま月末にかけて1170台でもみ合いとなり、結局、1169.5でクローズ。

■ 今月の見通し

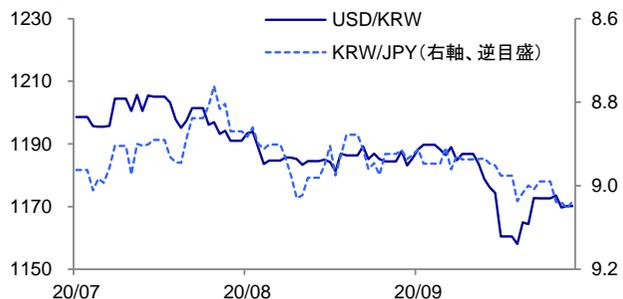
10月のドル/ウォン相場はやや底堅い展開を予想する。市場のメインドライバーは米追加景気対策案および大統領選、ならびにワクチン開発の進捗に関するニュースとなる。韓国ではCOVID-19の第二波感染拡大が収まりつつあり、「社会的距離の確保」のレベル引き上げ懸念による韓国国内の景気回復鈍化懸念はいったん後退しつつある。一方、米国では追加景気対策案を巡り、共和党と民主党との間で隔たりがあるほか、共和党とトランプ大統領とも歩調が一致しておらず可決するには時間がかかる印象だ。市場では少なくともトランプ大統領が許容するとみられている上限(1兆5千億ドル規模)程度は織り込み済みであり、それ以上の規模で実施されない限り株式市場は失望売りとなる。また、ワクチン開発についても年内での開発完了程度は織り込み済みであり、むしろ開発遅延となるニュースが出ることによるリスクオフを警戒したい。また欧州ではCOVID-19の再感染が広がりつつあり、英国ではロックダウンの再導入の可能性も浮上している。こちらについてはかなり織り込み済みと思われるものの、想定以上の規模での実施となった場合、一層のリスクオフ相場懸念があることから一定の注意を払いたい。金融政策は、引き続き米韓ともに様子見ムードを予想。FRBは平均インフレ率が2%になるまで現在の緩やかな姿勢を続けることを示唆している一方で、イールドカーブコントロールの効果について懐疑的であり、FRBはしばらくはコロナウイルス対応として導入した債券購入プログラムの買い入れ条件を調整することで緩和を図ると思われる。韓国は5月28日の会合で利下げをした際に、総裁が政策金利は実効下限に近いとの姿勢を表明している。8月27日の会合では今年の成長率見通しを▲0.5%から▲1.3%以下に引き下げたものの、追加の緩和には慎重な姿勢を崩しておらず、金融緩和起因によるドル/ウォンの変動は限定的となる。かかる状況下、ドル/ウォンは全体的なリスクオフ相場によるドル買いの影響を受け底堅く推移する展開を想定する。ただし、レンジ上限として意識されている1200付近では、水準感から実需のウォン買いフローが相応に入ってくると考えられる。長期的にはドルの過剰感からドル/ウォンが下落しやすいことから、1200を越えて上昇する可能性は低いだろう。

■ 今月のつづやき(現地からの声)

『覚えておきたい当地の言葉』
「ケンチャナヨ」です。ご存知の方も多いかもしれませんが、「ケンチャナヨ」とは当地で大丈夫という意味。韓国人は世界的に見れば勤勉でまじめな性格ですが、日本人と比較すると大雑把なところも結構あります。そんな韓国人がすぐに言う言葉が「ケンチャナヨ」。つまり、気にしない、大丈夫ってことですね。店で買い物をした際に、袋がいりませんか？(ボンジョテュリムニカ?)と言われたり、部屋が寒くないですか？(ヨギヌンチュプチアナヨ?)と聞かれたり、韓国で生活していく上ではよくあるこのような会話も、すべて「ケンチャナヨ」と言えば通じます(韓国人同士での会話でも用いられています)。正直韓国語は相手の言っていることを聞き取るだけで精いっぱい私としては、とりあえず会話が成立するので大丈夫です。ちなみに、「アンケンチャナヨ」と言えば大丈夫ではありません(「アンケンチャナヨ」はあまり韓国人の人は使いませんが。。)。直感的にわかるこの二つのフレーズで今でも困ったときは突破しています。皆さんもいつか旅行で韓国に来た際には日本語か英語で会話することになるかと思いますが、「ケンチャナヨ」を織り交ぜると韓国の方も喜んでくれるかと思えます。

■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
9/1	輸入(前年比)	8月	-14.9%	-16.3%	-11.6%
9/1	輸出(前年比)	8月	-10.3%	-9.9%	-7.1%
9/1	貿易収支	8月	\$3700m	\$4116m	\$4108m
9/1	GDP(前年比)	2Q確報	-2.9%	-2.7%	-2.9%
9/2	CPI(前年比)	8月	0.5%	0.7%	0.3%
9/9	失業率(季調済)	8月	4.2%	3.2%	4.2%
9/25	消費者信頼感	8月	84.2	79.4	88.2
9/29	鉱工業生産(前年比)	8月	-3.0%	-3.0%	-2.4%

台湾ドル相場

予想レンジ: USD/TWD 28.90 ~ 29.30
TWD/JPY 3.58 ~ 3.65

東アジア資金部台北室 柴田 裕央

■ 先月の為替相場

9月のドル/台湾ドルは7年8か月ぶりに安値を更新。

ドル/台湾ドルは29.530でオープン。四半期末である9月は、月初から輸出企業のドル売り圧力が強く、大口の海外送金が散見されたものの、上値が重い展開に。また、海外投資の配当金の還流や海外のNDFマーケットの急落もあり、ドル台湾ドルは徐々に値を下げ、29.300付近まで下落。週央に入ると、台湾ドル高への警戒感が高まり、輸出企業のドル売りが加速。また、9/16には台湾株が上昇し、台湾加権指数が一時13,000ポイントをつけたことも台湾ドル買いをサポートし、29.130付近まで下落。その後、株高が一服しても、台湾ドル高の勢いは止まらず、9/18には一時29.017まで下落し、約2年半ぶりの水準に。月後半に入っても流れは変わらず、9/21には29.000を割り込むと28.935まで下落し、約7年8か月ぶりの安値を更新。ただし、その後は米ハイテク株の下落につられ、台湾株が連日下落する中、外国人投資家の台湾ドル売りフローが拡大。ドル台湾ドルは反発し、29.270付近まで戻した。しかし、月末が近づくとつれて、再度、輸出企業のドル売りが優勢となり、再び29.000割れて推移した。

■ 今月の見通し

10月のドル/台湾ドルはレンジでの推移を見込む。

9月については四半期末であったことから、輸出企業のドル売り圧力が終始強かったが、10月については一旦和らぐと想定する。4月以降、台湾ドル高傾向が続いており、輸出企業が様子見する場面もあったが、四半期末の6月、9月では、輸出企業もドル売りに動かざるをえず、大幅な台湾ドル高となった。この流れが続くのであれば、10月は一旦台湾ドル高の流れは落ち着くであろう。ただし、12月については四半期末だけでなく年末でもあり、より一層の台湾ドル高を警戒しなければならない。では、輸出企業の実需が続くか、貿易動向をみると、8月の輸出額は前年同月比+8.3%、先行指数となる輸出受注額も前年同月比+13.6%と増加しており、いずれも8月単月の最高額を更新するほど好調である。新型コロナウイルスの影響でテレワーク等が増加しており、電子部品を中心に輸出が引き続き強い状況にあることが要因だが、中国企業が米国の輸出規制強化前に発注を増やしたことも一因となっている。台湾の輸出には、新型コロナウイルス、米中対立がプラス材料となっているが、新型コロナウイルスのワクチンが開発されても接種までにも時間を要するし、テレワーク化の流れが大きく逆戻りすることも考えにくい。また、米国大統領選においてはバイデン氏も親中派ではなく、米中対立もすぐに和らぐことが想定しにくい。引き続き、台湾ドル高の材料となるであろう。

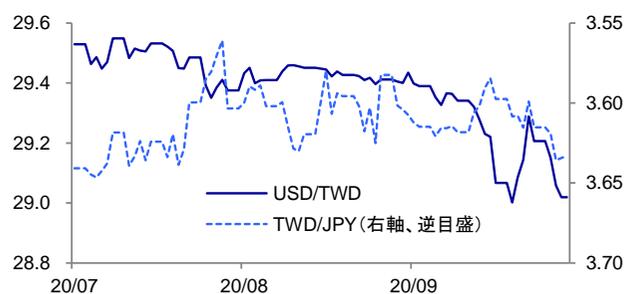
■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『覚えておきたい、当地の言葉』

台湾に観光に来られた方はご存じかもしれませんが、特に台北では日本語が通じるお店や場所が海外としては比較的多いです。また、メニューなども日本語表示がある場合もありますし、漢字でなんとなく意味が分かることもあります。道が分からなくてもスマホがあれば、人に尋ねなくてもスマホが教えてくれます。そんな日本人にとってやさしい台湾ですが、日本語も英語も通じない可能性が非常に高い乗り物があります。それはタクシーです。ここに行きたいとスマホで調べてタクシーの運転手に見せても、スマホの翻訳機能は使えません。そこで、「我要去這裡(ここに行きたいです)」と言えばOKです。注意すべきは、中国語を勉強したことがある人はご存じの通り発音。声調を間違えると、言葉が伝わりません。怪訝な顔をされても、「聽不懂(聞こえない)」と言っていただければ、不快に思われているのではなく、単に発音が通じていないだけです。ここでめげずに頑張りましょう。あとは、ドリンクスタンドでの注文。タピオカミルクティーを注文する際は、サイズ、氷の量と甘さを選ばないといけません。スタンドによっては、指差して注文できません。そんなときは「大杯、微糖、微氷(大きいサイズ、甘さ控えめ、氷少なめ)」にしてあげれば、間違えはないでしょう。(お店によって表記が異なるので、甘さは三分と表記される場合もあります。通常は凄く甘いので、控えめがおススメです。)

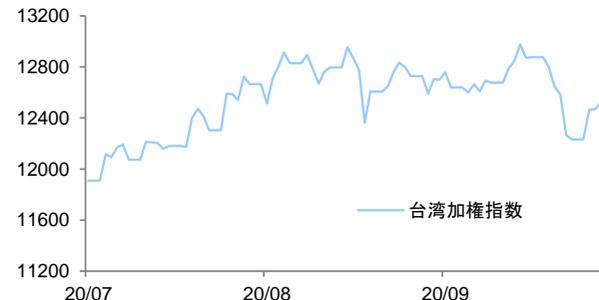
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
9/4	外貨準備高	8月	-	498.17B	496.17B
9/7	輸出(前年比)	8月	0.8%	8.3%	0.4%
9/7	輸入(前年比)	8月	-0.5%	8.5%	-6.8%
9/7	貿易収支	8月	6.33B	6.47B	5.37B
9/8	CPI(前年比)	8月	-0.40%	-0.33%	-0.52%
9/17	公定歩合	3Q	1.125%	1.125%	1.125%
9/21	輸出受注(前年比)	8月	9.7%	13.6%	12.4%
9/22	失業率	8月	3.90%	3.83%	3.90%
9/23	鉱工業生産(前年比)	8月	4.00%	4.70%	2.75%

香港ドル相場

予想レンジ: USD/HKD 7.7500 ~ 7.7550
HKD/JPY 13.25 ~ 13.75

東アジア資金部 Ken Cheung

■ 先月の為替相場

【9月の香港ドル直物相場】

9月の香港ドル相場は、香港株式市場におけるIPOが引き続き活況を呈しており、強い香港ドル調達需要を背景に、香港ドル高の取引バンド上限となる7.7500付近での値動きが継続した。米国株式市場に上場している中国企業による本国回帰の重複上場が相次いでいることに加えて、中国の大手フィンテック企業による上海・香港両株式市場での新規上場では350億米ドルの調達(直近の報道では香港で半分の175億米ドルの調達を目指す見通し)が控えている。香港金融管理局(HKMA)はペッグ制防衛の為、何度も香港ドル売り米ドル買いの為替介入を実施した。世界的に株式市場が急落したにも関わらず、ストックコネクト(中国本土市場との株式相互取引制度)による中国ハイテク関連株購入の取引フローは年初来拡大を続けている。また、香港ドル金利と米ドル金利の金利差は拡大しているものの、米ドル売り香港ドル買いのキャリートレードが再度活発化するまでには至っていない。

【9月の香港ドル金利市場】

香港ドル為替相場の堅調推移によりHKMAによる香港ドル売り為替介入は増加、HKMAのアグリゲートバランスは3年ぶりの高水準となる2,426億香港ドルまで増加した。香港ドルの流動性供給にも関わらず、香港ドル金利はIPOによる資金需要と四半期末の季節要因により、1か月物の香港ドルHIBORは0.50%を超え今年6月以来の高水準に上昇した。3か月物の香港ドルHIBORも0.65%まで上昇し、2か月振りの水準となり、3か月物の米ドルLIBORが過去最低の0.2225%まで低下すると、HIBOR-LIBORのスプレッドは40bps以上に拡大した。Fedによる平均2%のインフレターゲット目標導入に対する香港ドル長期金利への影響は限定的だった。

■ 今月の見通し

【10月の香港ドル直物相場】

中国と米国の緊張が依然高まっていることを考慮すると、中国企業による本国回帰のIPOフローは年末まで続き、香港ドルは今後数か月間も引き続き7.7500付近に留まると予想される。一方で、足元のハイテク関連株の調整とハンセン株価指数の下落を考慮するとストックコネクト経由での香港株式市場への資金流入は、今後落ち着く可能性がある。一部報道では、10月中旬に香港自治法に基づき米国政府が香港の銀行に対する制裁リストを発表すると報じられるなど、香港の銀行に対する米国の制裁を巡る不確実性は、投資家心理を悪化させる可能性がある。実際、トランプ大統領は11月3日の米大統領選挙の再選に向けて支持を得るために、香港問題に関して中国に対して予期せぬ強硬な対応をとる可能性もある。香港の銀行に対する厳しい制裁は香港の金融市場に影響を与え、香港ドル為替市場のボラティリティが上昇する可能性がある。しかし、香港ドルのペッグ制に対し、規制を加えようとすると米ドルの基軸通貨としての地位低下など代償が大きく、当面の間ペッグ制は現状どおり維持されると考えている。

【10月の香港ドル金利市場】

10月の香港ドル金利は四半期末の季節要因剥落に一時的に低下すると考えるが、香港株式市場で175億米ドル(1,310億香港ドル)の調達を目標とする中国のフィンテック大手企業のIPOが控えており、底堅く推移するだろう。HKMAによる香港ドルの流動性供給により、香港ドルのアグリゲートバランスは3年ぶりの高水準である2,426億香港ドルまで上昇し、香港ドルの流動性は潤沢になっている。FRBが新しい平均インフレ目標政策の下で2023年末まで利上げを行わないことを示唆したことから、香港ドル金利は中期的には米ドル金利に連れて低下方向で推移するだろう。しかし、米国による香港の銀行に対する制裁が予想以上に厳しくなれば、香港からの資金流出を引き起こし、香港ドル金利は上昇する可能性がある。

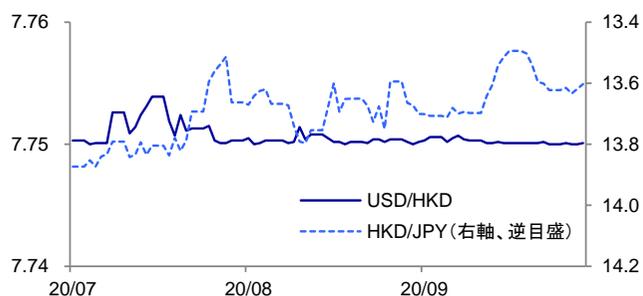
■ 今月のつづやき(現地からの声)

『覚えておきたい、当地の言葉』

大丈夫と伝えたい時は、「OK la(ラ)」や「モウ・マン・タイ」と言うのが一般的です。「モウ・マン・タイ」は日本では「無問題」と表記され、1999年に上映されたナインティナインの岡村隆史主演の香港映画のタイトルにもなっており、日本人にも馴染みやすい言葉です。頼み事をしたり、質問をする時は、「ン・ゴイ」と尋ねます。日本の「すみません」と同様に「ン・ゴイ」はとても汎用性が高く多くの場面で使うことができます。返事をする時は日本語で「はい」と言いますが、当地でも同じく「ハイ」と言います。また、人の名前を「○○さん」と呼ぶ時も、同様に「○○サン」と言います。同じ発音のため、違和感なく使用することができます。その他、お礼を言う時は「ドウ・ジェ・サイ」、朝に挨拶をする時は「ジョウ・サン」、会計をする時は「マイ・ダン」と言ってみてください。香港では英語が通じる場面が多いですが、ローカルの店やタクシー等では、英語が通じないため、必要最低限の広東語を覚える必要があります。また、これらの広東語を使うと、香港の人より親しくなることができ、香港での生活が充実します！

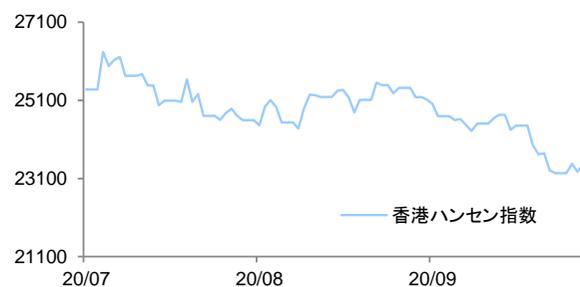
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
9/1	小売売上高(価額、前年比)	7月	-27.4%	-23.10%	-24.70%
9/3	日経香港PMI	8月	-	44.0	44.5
9/7	外貨準備高	8月	-	\$450.0b	\$450.0b
9/14	鉱工業生産(前年比)	2Q	-	-5.10%	-4.60%
9/14	PPI 前年比	2Q	-	1.3%	1.3%
9/17	失業率(季調済)	8月	6.3%	6.1%	6.1%
9/24	輸出(前年比)	8月	-3.00%	-2.30%	-3.00%
9/24	輸入(前年比)	8月	-3.90%	-5.70%	-3.40%
9/24	貿易収支(HKD)	8月	-20.5b	-14.6b	-29.8b
9/30	小売売上高(価額、前年比)	8月	-18.0%	-13.10%	-23.10%

中国人民元相場

予想レンジ:

USD/CNY	6.7000	～	6.9500
CNY/JPY	15.00	～	16.00
100JPY/CNY	6.2500	～	6.6700

みずほ銀行(中国)有限公司 中国為替資金部 竹本 寛

■ 先月の為替相場

9月のUSDCNYは下に往って来いの展開。

6.84台でスタートしたUSDCNYは、8月の下落の流れを保ったまま、1日には6.81ちょうど付近まで下値を試し、昨年5月以来のレベルまで元高が進行。

一旦の下げ止まりを見せた後、7日にトランプ大統領が中国で事業を行う米国企業に対する課税を主張するなど、米中対立によるリスクセンチメント悪化に伴う元安の動きを背景に、9日には一時6.85台を回復した。

しかし、中旬に入ると、15日発表の中国・8月主要経済指標(工業生産・小売売上高・都市部固定資産投資)が軒並み良好な結果となったことや、9月FOMCにおけるフォワードガイダンスのハト派修正への思惑から、ドル安元高が再燃。6.80の節目を割り込んだ後は、6.75台ちょうど付近まで下げ足を速める。

FOMC通過後はショートカバーの動きや国慶節前のフローなどを受けてUSDCNYは上昇へ転じ、24日には一時6.83台半ばまで上値を伸ばした。28日時点では、6.82近辺で推移している。

■ 今月の見通し

10月のUSDCNYは上値の重い推移を予想する。

6月から続く一貫した元高の動きは8月下旬から下げ足を速めていたが、9月に一旦ブレーキをかける格好となっている。11月の米大統領選挙を控えて、短期的に相場の読みづらい展開が想定されるが、ファンダメンタルズにみるUSDCNYの方向感には大きな変化はないと見る。先行する新型コロナからの経済回復、米中金融政策格差による金利差拡大などは元高を根底からサポートする要因となり得る。さらに、当局が金融市場の段階的な開放を推進する中で証券投資フローも無視できないものとなってきている。

9月25日、FTSEラッセルは世界国債インデック(WGBI)に中国国債を採用することを発表した(組み入れは2021年10月)。中国国債の採用は、Bloomberg・Barclaysインデックス、J.P.Morganインデックスに続いて3つ目。2017年にスタートしたボンドコネク(債券通)を通じた海外から中国オンショアへの投資フローも拡大している。今年の7月にはストックコネクを通じたインフローによる人民元建て株式市場の上昇に合わせ、人民元が急騰したことは記憶に新しい。証券投資の流入フローが必ずしもスポット価格に対して元高方向の影響を与えるとは限らないが、元高方向のセンチメントを与える要因の一つとなろう。

米中対立は元安要因として機能してきたが、現状において相場の方向感を変えるほどのトピックとはなっていない。在米中国IT企業を巡る対立も短期的な相場変動要因に留まると想定される。USDCNYは上値の重い展開をメインシナリオとしたい。

■ 今月のつづやき(現地からの声)

『覚えておきたい、当地の言葉』

『美女』、『帅哥』

レストランなどで店員さんを呼ぶ時、日本であれば「すみませ〜ん」と声をかけるのが普通かと思います。

中国でも店員さんを意味する「服务员(フーウェン)」という言葉があり、声をかける際にも使われますが、店員さんが女性であれば「美女(メイユ)、男性であれば「帅哥(シェイガ)」と呼んでみましょう。

それぞれ、「美人」、「イケメン」という意味ですが、相手が正真正銘の美人・イケメンでなくても大丈夫。名前を知らない相手に対してもカジュアルに使用することができます。年齢もあまり関係ありません。

逆に店員さんもお客さんに対して使いますし、道を尋ねる時などにも、このように呼びかけているのを聞いたことがあります。

ですので、中国で「美女」、「帅哥」と呼ばれても、喜びすぎないようにしましょう。

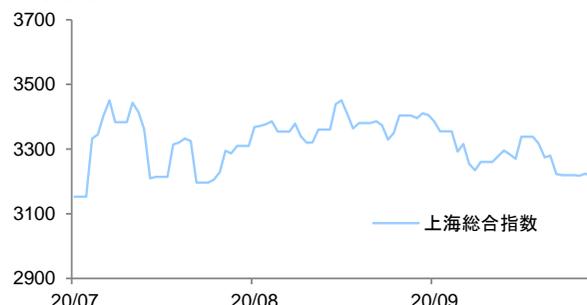
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
9/1	財新・製造業PMI	8月	52.5	53.1	52.8
9/3	財新・サービス業PMI	8月	53.9	54.0	54.1
9/7	貿易収支	8月	\$49.70b	\$58.93b	\$62.33b
9/9	PPI(前年比)	8月	-1.9%	-2.0%	-2.4%
9/9	CPI(前年比)	8月	2.4%	2.4%	2.7%
9/15	鉱工業生産(前年比)	8月	5.1%	5.6%	4.8%
9/15	小売売上高(前年比)	8月	0.0%	0.5%	-1.1%
9/15	都市固定資産投資(年初来/前年比)	8月	-0.4%	-0.3%	-1.6%
9/21	LPR1年物	-	3.85%	3.85%	3.85%
9/21	LPR5年物	-	4.65%	4.65%	4.65%

シンガポールドル相場

予想レンジ: USD/SGD 1.3500 ~ 1.3900
SGD/JPY 76.00 ~ 78.00

アジア・オセアニア資金部 成田 隼基

■ 先月の為替相場

2020年9月のシンガポールドル (SGD) 相場は、SGD安が進行。

月初は米株安に連れ、新興国通貨は軟調に推移。「中国への依存を終わらせる」とのトランプ大統領の発言が警戒されたほか、英EU通商協議の先行き不安が頭頭。リスクオフムードが広がる中、SGDはUSDに対し軟調に推移。月初、1.35台半ばで推移していたUSD/SGDは、1.37台までUSD高が進行した。

しかし14日、新型コロナウイルスのワクチン開発関連のヘッドラインが好感されたほか、FOMCにて金融緩和姿勢が継続するとの見込みが強まったことを背景に、新興国通貨は上昇。その後発表された中国の鉱工業生産が8か月ぶりの水準まで回復したことなども相まって、SGDは大幅上昇。USD/SGDは、一時1.35台前半の水準までSGD高が進行した。

しかしその後は、実際にFOMC開催が近づくに連れUSDは上昇し、新興国通貨は徐々に勢いを失う展開。米国の雇用関連指数が弱い結果を示し、景気回復への懸念が拡大する中、SGDは再び軟調に。

21日には新型コロナウイルス関連報道につき欧州での感染再拡大が取り沙汰され、経済活動制限への懸念から欧米株が下落。SGDは大幅下落となった。その後、エバンス・シカゴ連銀総裁より「FRBはインフレ率が平均2%になる前に利上げすることは可能」としたタカ派な発言が見られたことから、USDが上昇。一時1.35台前半の水準までSGD高が進行していたUSD/SGDは一転、1.38台までSGD安が進行した。

その後はトランプ政権と民主党政権による新型コロナウイルス経済対策を巡る協議が再開されるとの期待感が膨らみ、米株が反発。USD買いに一服感が見られ、SGDは小幅に上昇。USD/SGDは現在、1.37台前半で推移している。

■ 今月の見通し

2020年10月のシンガポールドル (SGD) 相場は、SGD安の進行を予想。

10月はMAS会合が予定されている。足元、世界の主要国が様々な新型コロナウイルス対策を打ち出しているが、金融政策ではなく財政政策が現時点の経済回復のカギになるとの声が根強い。掛かる状況を踏まえ、次回MAS会合では現在の金融政策スタンスが据え置かれるものと予想する。

MASは為替レートを設定し金融政策を管理しており、SGDを主要貿易相手国の通貨に対して非開示の範囲内で上下させている。前回3月の会合では、通貨バンドの上昇率をフラット化させ、実質的にバンドの中心を下方に移動させることで、2009年の金融危機以来最大の緩和策を打ち出した。他方、政府が1000億SGD相当額の財政支援を実施しており、市場参加者のみならず、MASとしても財政政策がパンデミック下の世界における経済対応の「鍵」であると考えている。まずは財政による支援を、とする声が高まる中、今次タイミングで金融政策の変更を実施することは必ずしも得策ではないことから、次回会合においては現在の緩和スタンスを維持するものと考ええる。

シンガポール第2四半期GDPは、前年同期比▲13.2%という軟調な結果。最悪期からは脱却したと考えられるものの、今後の経済回復のペースは鈍いものとなるだろう。貿易依存型経済であるシンガポールにおいて同国の医薬品は世界的な需要により高い輸出実績は示しているが、他産業分野は予断を許さない状況にある。

10月のSGD相場については、引き続きメインピクスは米中情勢となろうが、MASが発表する金融政策内容、また声明にも注目したい。同国経済は必ずしも明るい材料ばかりではなく、経済見通しにつきややネガティブな目線が示されるようであれば、SGDは軟調に推移しよう。

■ 今月のつづやき(現地からの声)

『覚えておきたい当地の言葉』
今回のお題を見て、ローカルスタッフに聞いてみたところ、代わりにリー・クアンユーはたくさんの名言を残しているはずだ、とアドバイスをもらいました。リー・クアンユーさんはシンガポールの初代首相で、1965年の独立から長きに渡って首相として強烈なリーダーシップを発揮しシンガポールを繁栄に導いた「建国の父」ですので、名言も「リーダーとは」、というようなものが多かったです。

“If you cannot force or are unwilling to force your people to follow you, with or without threats, you are not a leader”
周りに何かを強要する、ということは時代に合わなくなってきたのかもしれませんが、「志を持って人気取りは必要ない」という言葉にも表れている通り、自らのビジョンを周りにしっかりと伝え引っ張っていく、強烈なリーダーシップが表現された言葉だと思います。

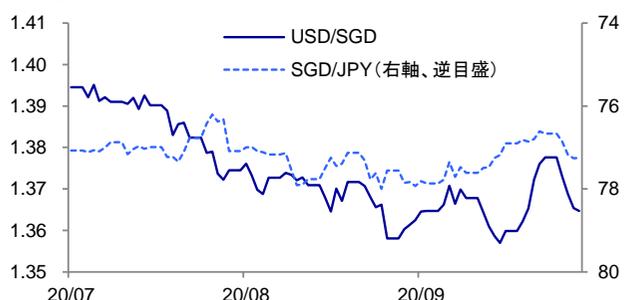
“What I fear is complacency. When things always become better, people tend to want more for less work”
「シンガポールのような国は常に創造性を維持し、前に進み続けなければ未来がない」とも発言していたようです。これは自分の行動にも思いあたるところがあります。

過去には日経新聞の「私の履歴書」でエピソードが紹介されていたり、彼の名言を取り上げた本が日本でも複数出版されているようですので、時間を見つけて読んでみたいと思います。

(吉田 朋哉)

■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
9/4	購買部景気指数	8月	50.1	50.1	50.2
9/4	小売売上高(前年比)	7月	-15.0%	-8.5%	-27.7%
9/17	非石油地場輸出(前年比)	8月	3.3%	7.7%	5.9%
9/23	CPI(前年比)	8月	-0.5%	-0.4%	-0.4%
9/25	鉱工業生産(前年比)	8月	2.2%	13.7%	-7.6%

タイパーツ相場

予想レンジ: USD/THB 31.20 ~ 32.20
THB/JPY 3.27 ~ 3.38

アジア・オセアニア資金部 バンコック室 橋 雄史

■ 先月の為替相場

9月のドル/パーツは上値重く推移した後、月末にかけて上昇した。月初は31.05近辺でオープン。タイ政府が8月に就任を発表したプリディ財相がわずか1か月で辞任を表明したことからパーツ売りが進み、31パーツ前半まで上昇。4日にはバンコクの刑務所の拘留者から、101日ぶりとなるタイ国内の新規コロナ感染者が確認されたとの報道に31.40台まで上昇。同日発表された8月雇用統計では、雇用者数の伸びに鈍化が見られるも、失業率や平均時給は前月比改善基調を示し、ドル売りが進んだことで31.30後半で週を終えた。ソンクラン休暇明けとなる8日は31.30後半で取引開始。英国がEUとの離脱協定について、一部無効化の準備との報道からリスクオフムードが強まり、ドル/パーツは31.40台まで上昇。

月中10日にはECB理事会において、ラガルドECB総裁がユーロ高を容認する姿勢を見せたことからユーロが一段高となる展開にドル/パーツも下落。11日から15日にかけては中国の経済指標が好調であったことから人民元高が進行し、パーツも買い基調で推移し、31.20台まで水準を下げた。17日にはFOMC後のパウエル議長会見で、低金利が2023年末まで続く見通しが示され、ドル売りが優勢となる中、ドル/パーツは31.10台まで下落。18日には、8月タイ自動車販売台数が発表され、前月を上回る結果となったものの相場への反応は限定的となった。

月後半21日は、前週末に総勢5万人規模となる反政府集会が行われたものの、武力衝突なく無事に終わったことから、朝方は31パーツを割り込み、3週間ぶりの安値水準まで下落。しかし、欧州での新型コロナウイルス感染拡大が嫌気されると、再び上昇基調を辿り、31.30付近へ上昇。22日以降も欧州のコロナ感染拡大が懸念される中、ドル/パーツは31.50付近へ上昇。23日にはタイ中銀の金融政策決定委員会(MPC)にて政策金利が市場予想通り0.50%に据え置かれた一方、2021年の経済見通しは+3.6%(前回は+5.0%)へ下方修正されたことから、パーツ売りが進行。24日には31.65近辺まで上伸した。月末週28日はパーツ安基調でオープンし、直近高値をブレイクした後も一段高となり、10月まで緊急事態宣言の延長されるとの発表も相まって、月間高値を更新し、31.75近辺まで上昇。その後も月末にかけて高値圏で推移し、結局31台半ばでの越月となった。

■ 今月の見通し

10月のドル/パーツ相場は底堅い展開を予想する。9月のパーツ相場は月中まではドルの動きに振られる展開となったが、月末近辺は現政権への不満からデモ活動が加速し、タイの国内政治不安が高まったことに加え、緊急事態宣言が10月末まで延期されるなど、タイ経済の回復遅延懸念からパーツ安が進む展開となった。

6月から9月にかけて長らく続いていたドル/パーツの持ち合い相場も、9月末にはレンジを上抜けた印象があり、欧州でのコロナ感染拡大が懸念される中で、ドル買戻しの流れが強まれば、素直に上昇相場に転じる展開が予想される。

10月はタイ中銀の金融政策委員会も予定されておらず、国内経済指標への反応も限定的となる中でパーツを買い進める材料も乏しく、上値トライしやすい環境といえよう。ここ数か月のパーツ相場を振り返った際、パーツ高に振れたケースはグローバルにリスクオンムードが高まり、人民元が買われた局面であったが、米国の大統領選挙も残すところ1か月ちょいとなる中、米国が積極的に中国への歩み寄りを見せる展開は想定しにくく、人民元が大きく買われる展開は期待薄といったところ。ドル/パーツは上記材料を踏まえると、売り材料に欠ける状況であり、10月のドル/パーツは底堅い展開となるのではなかろうか。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『覚えておきたい、当地の言葉』
観光や仕事でタイに来られる際、誰もが耳にする言葉といえば、「コップンカー」「サワディカー」があると思います。こちらは日本語の「ありがとう」「こんにちは、さようなら」にあたりますが、語尾のカーは日本語でいう「です、ます。」になりますので、丁寧語の形です。

カーは女性が使用する言葉になりますので、男性の場合はカーの代わりにカップ(クワップ)を付ける必要があります。「コップカップ」「サワディカップ」を使用します。語尾にカーを付けても十分に会話は通じますので、気にしすぎることありませんが、中性的な男性？が多いタイで生活する上では、こちらを知っておくと、男女の言葉の差がわかって、日常生活がより楽しくなると思います。

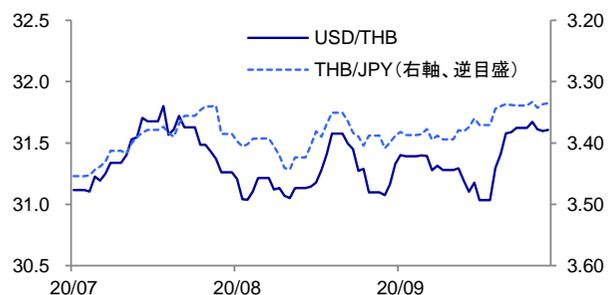
また、タイ人と日頃の会話をすると欠かさないワードと言えば、なんとと言っても「アロイ(日本語の美味しい)」でしょう。食べ物好きのタイ人。隙さえあればいつも何かを食べております。私もタイ人同僚から毎日のようにお菓子を渡されますが、食べた後に「アロイ」というと、同僚も嬉しな顔になって、親近感が沸きます。本当に美味しい時は、強調用語のマークを付けて「アロイマーク」と言うのですが、油断をすると、次から次へとお菓子が来てしまいますので、時にはイムレオ(お腹いっぱい)と言って、お菓子攻撃を交わす術も、時には必要となります。

それ以外にも覚えておく便利な言葉は沢山ありますが、コロナが落ち着き、タイに観光に来られる際、先ずはキャプテンアテンダント(CA)さんに「アロイ」を使って会話されてみてはいかがでしょうか。

最後に、私のつぶやきを読んでいただき、ありがとうございました。それでは皆さま、さようなら。コップンマーカップ、サワディカップ。

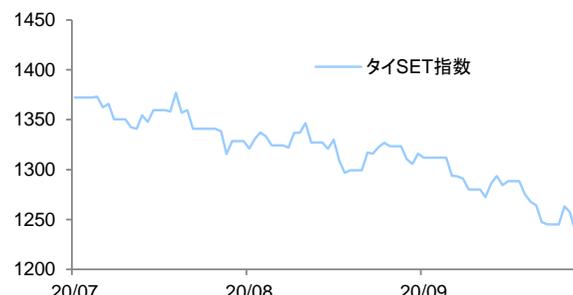
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
9/3	CPI(前年比)	8月	-0.60%	-0.50%	-0.98%
9/3	CPIコア(前年比)	8月	0.17%	0.29%	0.66%
9/9	消費者信頼感指数	8月	-	51	50.1
9/18	自動車販売台数	8月	-	68883	59335
9/23	輸出(通関ベース/前年比)	8月	-13.0%	-7.9%	-11.3%
9/23	輸入(通関ベース/前年比)	8月	-20.2%	-19.7%	-26.6%
9/23	貿易収支(通関ベース)	8月	\$3,090M	\$4,349M	\$3,343M
9/23	タイ中銀 政策金利	9月	0.50%	0.50%	0.50%

マレーシアリング相場

予想レンジ: USD/MYR 4.0800 ~ 4.1800
 MYR/JPY 24.90 ~ 25.60
 JPY/MYR 3.9100 ~ 4.0100

マレーシアみずほ銀行 関上 伸一

■ 先月の為替相場

9月のUSD/MYRは、米国超低利政策継続期待の高まりによるUSD安基調の継続と、活動制限令緩和後の中国向け輸出拡大をドライバーとする貿易収支黒字の拡大から下値を探る展開。然し政局混乱から月末に掛け反発。4.10~4.18のレンジとなった。

ジャクソンホールでFRB議長が示した「アベレージ」インフレターゲットフレームワークがUSD超低金利長期継続との市場期待を高め、月初はオープン後すぐ4.17を割り込み、3日に2月以来7か月振りの安値となる4.13台迄下落。原油需給の軟化懸念の台頭や史上最高値を付けていた米株が調整すると、USD/MYRも下げ止まり反発。10日木曜の中銀政策決定会合を控え、MYRの調整地合継続し、9日に月初の下げを取り戻し、4.18迄上昇。

その決定会合で、中銀は今年始めて政策金利(1.75%)を据置き。1月以降の連続利下げは4会合でストップ。過去最弱の▲17.1%/yのマイナス成長を記録したQ2GDP発表時に「景気の底は4月」と中銀は表明していたが、今次声明でも経済情勢が回復の兆しを見せていると説明。翌11日には7月鉱工業生産指数も予想比強い結果となる中で、USD/MYRも4.15レベルに反落。

中旬には15日の予想比強めの8月中国鉱工業生産指数と小売売上高が経済回復期待を高める中、USD/MYRも4.12台に下げ幅を拡大。16日FOMC後にUSDのショートカバーから17日に若干反発も、同日のOPECプラス会合を控え油価が底入れし、弱めの米指標も相俟って、21日には2月以来となる4.10台迄安値を更新。

しかし下旬は、23日にアンワル野党党首が突如「国会で多数派を握った」と会見を行うと、与党UMNO党首が一部所属議員の寝返りを認めて呼応。政局不透明感と同日発表の追加景気刺激策の財政負担懸念から、USD/MYRは4.17台に反発。FTSEラッセルは馬国債の世界国債インデックス組入継続を決定も、予想通りで反応薄。26日のサバ州議会選は国政与党が接戦を勝利し、州政権も交代。29日時点でUSD/MYRは4.16レベルで推移している。

■ 今月の見通し

10月のUSD/MYRは4.08~4.18レンジでの推移を予想。輸出データが順調な回復を示しMYRの需給が改善している一方で、コロナ第二波により世界経済減速懸念が再度高まり、これまで落ち着いていた国内感染状況も輸入症例から一部地域で再拡大。11月初の来年度政府予算案でアフターコロナの財政健全化の道筋を示す事が求められる中、俄かに生じた政局不安がMYRの弱材料となる。

3月以降のコロナ封じ込め策が奏功し、4月を底に貿易統計等の経済指標は足元まで順調に回復。然しながら、輸入症例に起因して、サバ州及びケダ州では大規模なクラスターが発生したこと、活動制限令再強化の懸念も浮上。一方で中銀が導入した中小企業向けの強制モラトリアムは予定通り9月末で終了し、ムヒディン政権は零細企業と低所得者層への支援として家計向け一時金と賃金補助を柱とするMYR10bn規模の第5次景気刺激策を発表した。

第5次刺激策は、8月にゴールドマンサックス証券から政府が収受した1MDB不正資金際疑惑の和解補償の一時金部分(\$2.5bn)と同規模で、これを織り込むと年度財政赤字対GDP比率は当初計画の2倍近い6%超えとなると見込まれる。パンデミック後に格付大手のS&PとFITCHはマレーシアソブリン格付(シングルAマイナス)の見通しをStableからNegativeに引下げており、コロナ感染下の戦時財政の様相ながら、11/6の21年度政府予算で健全化の道筋が示されるかに注目が集まる。

掛かる中で左記の通り勃発した政局から、11月予算国会に向けた不透明性が台頭。野党党首の主張が証明された場合には、①首相の申請による解散総選挙、②現首相の11月国会での信任決議、③マハティール前首相辞任時と同様の新首相の直接指名、の3つの選択肢が国王に委ねられるが、いずれのシナリオの場合も混乱が長引けばMYRの弱材料。

FTSEラッセルの世界国債インデックスへの馬国債組入継続と流動性カテゴリーの引上げ判断はMYR支援材料。来年度政府予算に向けて内政の安定を図り海外からの信認を維持出来るかが焦点となる。

■ 今月のつばやき(現地からの声)

『覚えておきたい、当地の言葉』

英領から独立したマレーシアでは官公庁の文書もマレー語に加え英語版も発出され、派遣者としては生活を含めてマレー語に頼ることが殆ど無いのが実情だ。敢えて言うと、ショッピングモールの駐車場では「Exit」の代わりにマレー語で「Keluar」と表示されていることも多いので、これは覚えておくことをお勧めしたい。

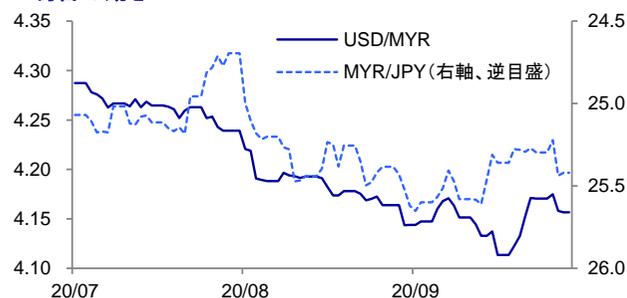
そうは云っても、国会の政府予算案会見や保健省及び国家公安委員会からテレグラムで送られてくる新型コロナ情報はマレー語のみなので、目に馴染んでくる単語も多い。例えば、CUKAI(税)やFUTANNEGARA(政府債務)は政府予算会見で頻出だ。

寧ろお伝えしたいのは、マレー人の名前のルール。イスラム教徒特有の「名前+bin/binti+実父の名前」というフォーマットである。binは「～の息子」、bintiは「～の娘」という意味で、マレー人ではないが「ウサマ・ビン・ラディン」は「ラディンの息子のウサマ」となる。マレーの人たち自身もムスリム独特のフォーマットだと知っているので、外国人が苗字と誤解し「Mr.●●」とババの名前で呼びかけても気にしない人も多いが、特に営業職の派遣者は気を付けておきたい。

一方サラワク先住民族は、キリスト教徒が多く欧米人のような名前であり、華人に多い通称英名とは位置付けが異なるので混同しないようにしておきたい。

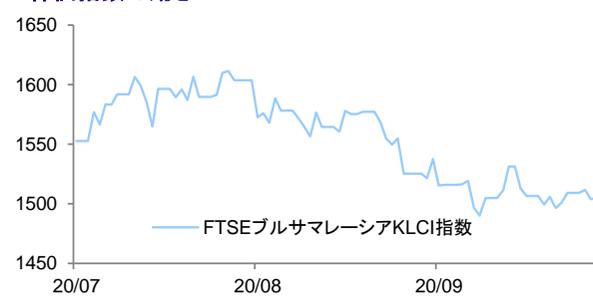
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
9/4	Foreign Reserves	28-Aug	-	104.4B	104.3B
9/10	Policy Rate(OPR)	10-Sep	1.75%	1.75%	1.75%
9/11	Industrial Output y/y	Jul	1.0%	1.2%	-0.4%
9/23	CPI y/y	Aug	-1.3%	-1.4%	-1.3%
9/23	Foreign Reserves	15-Sep	-	104.8B	104.4B
9/28	Trade Balance (MYR)	Aug	18.0B	13.2B	25.2B
9/28	Exports	Aug	4.9%	-2.9%	3.1%
9/28	Imports	Aug	-4.7%	-6.5%	-8.7%

インドネシアルピア相場

予想レンジ:

USD/IDR 14700 ~ 15400
 IDR/JPY 0.68 ~ 0.72
 JPY/IDR 138.89 ~ 147.06

(注) 100インドネシアルピアあたりの対円レート

アジア・オセアニア資金部 田才 雄

■ 先月の為替相場

9月のドル/ルピアは、ルピア安が進んだ。ドル/ルピアは月初1日、14500台半ばでスタート。インドネシア中央銀行の政策決定会合に閣僚が出席し、投票権を付与されることになる中銀にとって大幅な改革となる法案が提言されたことを背景に、中銀の独立性への懸念が高まったことを受けて、ルピア安に。ジョコ大統領は1日に「中銀の独立性は維持される」と表明するも、インドネシア国債の直接買入が懸念材料として煽る中、懸念は膨らみ、2日もルピアは続落。同日、中央銀行副総裁からは国債の直接買入について「負担共有スキームは今年限り」との発言もあったが、ルピア安地合での取引が続き、3日には14850水準へ。ルピア安が一旦落ち着くも、9日にはコロナウイルス感染者急増を理由に、大規模社会的制限の段階的緩和を打ち切り、再び強化するという発表により、ジャカルタ株価指数が5100台から4900割れまで急落する等、リスク回避の動きが強まり、ルピアも大きく下落。インドネシア中銀はボラティリティ抑制の為、介入を実施していることが当局者よりメディア向けに伝えられるも、ルピア安が続き、月中の安値15000近辺までルピア安が進んだ。15日に発表されたインドネシア8月の貿易収支は引き続き輸入の減少が寄与した格好で、23億ドル超の黒字を記録した。

月後半に入り、コロナウイルスワクチン開発への期待感から投資家のセンチメントが改善する中、ルピア安は一服。迎えた17日のインドネシア中銀金融政策決定会合では、市場予想通り、政策金利は据え置かれた一方で、ペリー・ワルジョ総裁は、中銀の独立性が脅かされているとの不安に対して、ジョコ大統領やスリ・ムルヤニ財務相が金融政策の独立性維持を確約していると発言したことが好感され、ルピア高の流れとなり、翌週21日には14700を割れ、一時14600台後半までルピア高が進行した。しかし、その後はインドネシア含め世界的にコロナウイルス感染拡大が猛威を振るう中、投資家のセンチメントは再び悪化したことで、24日には再び15000手前までルピアは反落。月末のドル買い需要もあり、月末にかけて14900台を中心としたルピア安水準での取引が続いた。(29日終値時点)

■ 今月の見通し

10月のドル/ルピアはルピアの軟調な推移を予想する。インドネシアにおけるコロナウイルス感染拡大状況は更に厳しさを増している。先月22日にはスリ・ムルヤニ財務相が20年のGDP成長見通しをマイナス1.7-マイナス0.6% (従来はマイナス1.1-プラス0.2%) まで引き下げる等、国内経済への影響も深刻なものとなっている。各国の金融効果の甲斐あって、これまで株式や新興国国債等のリスク資産価格が支えられてきたことで、ルピアもサポートされていたものの、15000手前での攻防が続いており、ルピアの弱さが目立ち始めた。

インドネシアの輸入は引き続き大きく減少しており、貿易収支は8月も大きな黒字を記録した。繰り返して述べているが、実需のルピア売りの減少はルピア安圧力の低減につながっていると考えられるものの、足許のルピアの状況からは、ルピア安を止めるには力不足感が否めない。

インドネシア10年物国債への資金流入も8月以降は、横ばいでの推移となっており、中銀による国債の直接買入や、独立性への懸念が煽っていることが一因と思われる。証券投資のフローはルピアを支える重要な担い手の一つであり、足許の10年物国債への資金流入が止まっている状況は、ルピア安を惹起させる。政府要人と、中銀総裁、副総裁から国債の直接買入や独立性への懸念に対する火消しは先月も度々見られたものの、新たにネガティブな報道が飛び出す可能性は煽ることから、注意が必要だろう。

ルピア安地合が続く中、インドネシア国内の物価が下落を続けているものの、中央銀行が追加利下げに動くことは想定し難い。9月に引き続き、10月も政策金利は現状維持となるのではないかと。

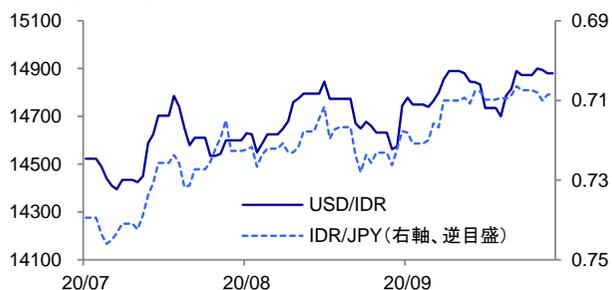
以上より、今月のドル/ルピアはルピア安を予想する。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

大変恐縮なのですが、諸般の事情により、暫くの間休載とさせていただきます。

■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
9/1	CPI(前年同月比)	8月	1.40%	1.32%	1.54%
9/7	外貨準備高	2Q	-	137.0	135.1
9/15	貿易収支(USD M)	8月	2168	2330	3238
9/15	輸出(前年比)	8月	-7.72%	-8.36%	-10.08%
9/17	BI 7daysリバースレポ金利	8月	4.00%	4.00%	4.00%

(資料) ブルームバーク

フィリピンペソ相場

予想レンジ: USD/PHP 47.80 ~ 49.00
 PHP/JPY 2.16 ~ 2.20

アジア・オセアニア資金部 マニラ室 樋上 陽一

■ 先月の為替相場

9月のオンショアドルペソ為替相場はペソ高一服となった。11週連続ペソ高の中で月の取引開始は、8月終値と同水準である1米ドル＝48.48ペソ。

月初はまずドル買い戻しが優勢に。ボスティック・アトランタ連銀総裁の「資産バブルのリスクを懸念すべき」との発言で3日に米株式市場が急落しリスクオフとなり、ECBレーン専務理事は「ユーロドルのレートは重要な問題」と述べ、英中銀のラムスデン副総裁からは「必要なら資産購入ペースの大幅拡大も可能」との発言が聞かれ、足元のドル安が牽制されたことが材料に。

4日の米8月雇用統計後に米株が続落したことで、不透明感が漂う米株式市場の動向を見極めたい市場参加者が多く、また中国8月貿易統計で輸入の落ち込みが目立つ冴えない内容になったことがアジア通貨の重しとなり、8日には1米ドル＝48.68ペソで一時取引され、これが9月のペソ安値となった。

米株に調整が入る中で10日に発表された比7月貿易赤字は市場予想の15億ドルから拡大して18.3億ドルとなり、前月の赤字幅も増額修正されたことからペソ売り材料として認識されてもおかしきはなかったが、ドルの上値は重く1米ドル＝48.60ペソを挟んで取引された。

その後、15日に発表された比7月海外在留フィリピン人労働者（OFW）送金が前年同月比マイナスの市場予想からプラスに転じて7.8%を記録したことが好感され、16日には1米ドル＝48.35ペソで取引されて年初来ペソ高値を更新したが、FOMC後にドルは再び買い戻され、米追加経済対策の行方、米株式市場の動き、リスクオン・オフ地合によって方向感を探る展開で1米ドル＝48.40-60ペソで取引されている。

(9月28日11時現在)

■ 今月の見通し

9月のドルインデックスは92台前半から94台前半まで上昇、一方、アジア通貨インデックスは往って来いの展開で上ヒゲの長いローソク足グラフを形成している。

為替市場全体のモメンタムはドル高で多くのアジア通貨が対ドルで弱含む中、ドルペソ為替相場は、ペソが売られる局面はあったものの、9月は結局ドルの上値の重さが確認されることとなった。

比8月消費者物価は2.4%となり前月の2.7%から減速、インフレは抑制されており、相場を動かす材料とはならないだろう。

10月1日に予定されているフィリピン中銀の会合では政策金利の据え置きが市場コンセンサスとなっている。

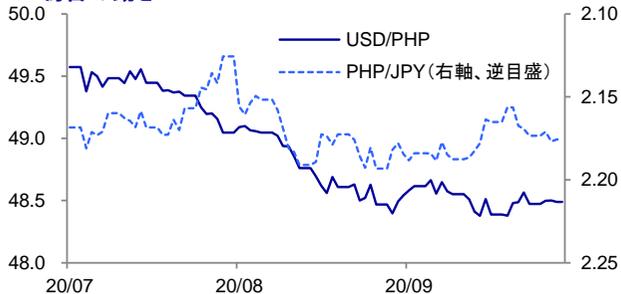
2会合連続の据え置きで年終盤の金融緩和余地を残しながらCOVID19禍の景気への影響を見極めるステージが継続するとみる。

比の8月外貨準備は990億ドルとなり、昨年末の791億ドルから大幅な増加し、史上最大に。ペソ防衛原資は十分と言え、中長期的目線では安定した相場の動きが期待できる。

9月28日深夜にフィリピン政府はマニラ首都圏の外出制限レベルを10月も維持することを決定した。制限緩和の可能性もあっただけにペソへのネガティブインパクトが注目されるが影響軽微とみる。

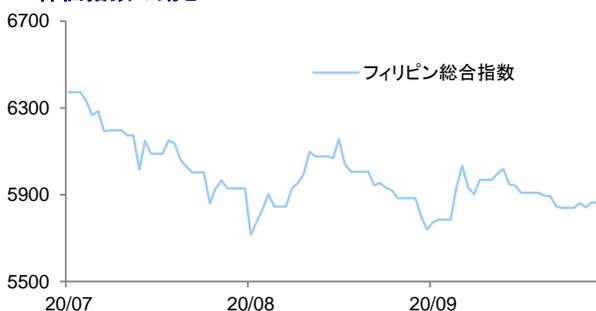
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

発表日 イベント
 上記参照

(資料) ブルームバーク

期間	予想	結果	前回
----	----	----	----

インドルピー相場

予想レンジ: USD/INR 71.50 ~ 75.50
INR/JPY 1.38 ~ 1.48

アジア・オセアニア資金部 インド室 田川 順也

■ 先月の為替相場

【9月の米ドル/インドルピーは安く始まった後、下げを幾分取り戻した】
印中銀の為替介入に対するスタンスの変化が懸念される中、ドル/ルピーは下落し、ロックダウン前の水準を8月末時点において回復する動きを見せる中、9月は73.25で取引を開始。印中銀が「ルピー高が輸入インフレを抑制している」とルピー高を容認するかのようなコメントを出したことが材料視され、1日は昼過ぎに節目となる73.00を下抜けると一気に72.75まで押され、当月安値を示現。同タイミングで年初来安値を更新し続けていたドルインデックスもユーロの下落をきっかけに底を打って反転。グローバルにドルが買い戻される動きにドル/ルピーも73台を回復。
二週目に入っても、英国の合意なき離脱懸念と米中関係悪化観測にリスクセンチメントが圧迫され、新興国通貨が選好されづらい地合いに加えて、欧州中銀総裁がユーロ高をけん制する発言をするとドルに資金が集まる展開。ドル/ルピーも73台半ばまで水準を戻す展開。米有力投資ファンドがReliance Retailに10億ドルの投資を発表、他ファンドも15億ドルの投資を検討している、とのヘッドラインにルピーが買われる場面もあったが本格的な動きとはならず。
三週目週初は米ファンドが印財閥系製薬企業の株式を5億ドル取得するとの発表および、コロナワクチンの開発進展期待によるリスク選好の強まりを背景として再度ルピーに追い風が吹いたが、グローバルに株式市場が調整地合いとなったことや、米財政への不足感、大統領選挙に対する不確実性などから、リスクオンモードにもなりづらい展開。
四週目に入り欧州大都市で再度ロックダウンが発表されるとセンセックスは単日で3%下落、ドル/ルピーも当月高値となる73.97をヒットするも74.00を前に失速。結局8日以降、月末までは73.20-73.90のレンジ内取引に終始した。

■ 今月の見通し

【10月の米ドル/インドルピーは横ばい推移を想定】
インドの外貨準備高の増加額を各月で比較すると、5月+140億ドル、6月+134億ドル、7月+277億ドル、8月+67億ドル、9月についても18日週末までに+36億ドルとなっており、8月以降は増えてはいるものの、そのペースが明らかに減速。ルピーの最大の売り手である為替介入に偏重が出ている。ただし、既述のように、9月の動きは結局73.20を下限としたレンジとなったように、「要所要所」では為替介入は存在。8月の高値(75.18)と9月の安値(72.75)の変化率を見ると3%ドル安/ルピー高になったところで止まっており、そこで「偶然」ルピー高が止まった、というよりも「官製」的なにおいがしなくもない。
ルピーの買い手側に目を向けると、既述のように500億円超規模の対内直接投資による海外からの資金流入が9月も目立った。印株式市場の調整に伴った対内証券投資の減少には注意が必要であるものの、海外からの投資資金の流入基調は変わらないものと想定。

ドルの動向はというと、3月後半にピークアウトした後、下押しが続いていたドルインデックスは9月1日を底に反転している。米国の経済指標も重要ではあるが、それよりも英国の政局不安や欧州の感染者推移(それに伴った移動制限)、米財政出動の規模、大統領選などの政局要因が与える影響が濃く、予想が難しい面があるが、現在の反発が短期的なものなのか・それともトレンド形成となるのか、注視したい。

■ 今月のつづやき(現地からの声)

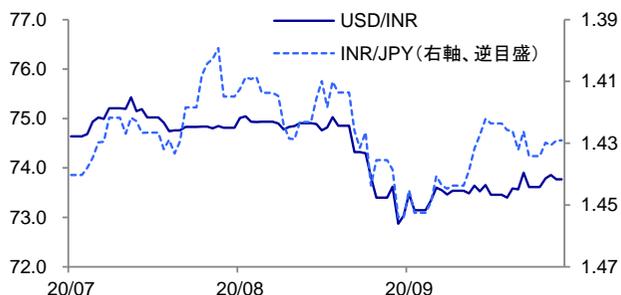
『覚えておきたい、当地の言葉』

バグワーン デーク ラハ ハェ！(神様が見ているぞ！)

インド人に囲まれた生活を10年以上つづけておりますが、この『バグワーン(神)』は本当によく耳にします。英語圏の人がOH MY GOD！！を使う全く同じ状況で北インド人も『バグワーン！！』を使っています。そんなバグワーンを使ったフレーズ、『バグワーン デーク ラハ ハェ』はインドでサバイバルな状況に陥った際に使える一言かもしれません。(長谷川かんな)

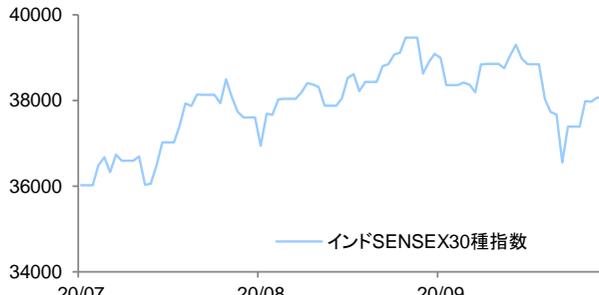
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント
9/1	製造業PMI
9/11	鉱工業生産
9/14	CPI
9/15	貿易収支

(資料) ブルームバーク

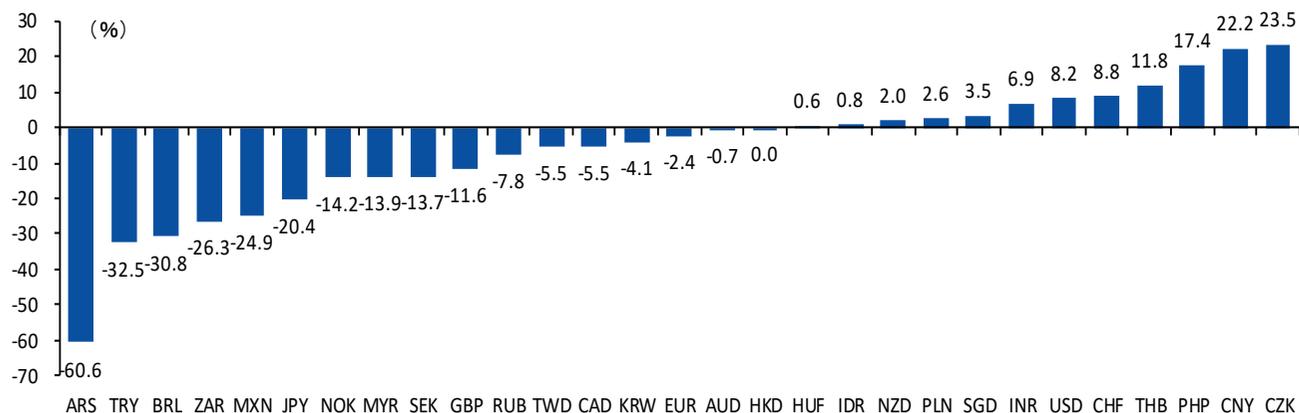
期間	予想	結果	前回
8月	-	52.0	46.0
7月	-11.8%	-10.4%	-15.8%
8月	6.90%	6.69%	6.93%
8月	\$7.0bio赤字	\$6.7bio赤字	\$4.8bio黒字

■ 為替市場・株式市場騰落率

	為替市場	2019年末	2020年9月末	騰落率	株式市場	2019年末	2020年9月末	騰落率	USD換算
先進国									
米国	-	-	-	-	NYダウ平均	28538.44	27781.7	-2.7%	-
日本	USD/JPY	108.61	105.48	-2.9%	日経平均株価	23656.62	23185.12	-2.0%	0.9%
ユーロ圏	EUR/USD	1.1213	1.1721	4.5%	ドイツDAX指数	13249.01	12760.73	-3.7%	-3.7%
英国	GBP/USD	1.3257	1.292	-2.5%	ロンドンFTSE100指数	7542.44	5866.1	-22.2%	-20.2%
豪州	AUD/USD	0.7021	0.7162	2.0%	S&P/ASX200指数	6684.075	5815.941	-13.0%	-14.7%
カナダ	USD/CAD	1.299	1.3319	2.5%	S&Pトント総合指数	17063.43	16121.38	-5.5%	-7.9%
エマーゼンゲアジア									
中国	USD/CNY	6.9632	6.791	-2.5%	上海総合	3050.124	3218.052	5.5%	8.2%
香港	USD/HKD	7.7914	7.75	-0.5%	香港ハンセン	28189.75	23459.05	-16.8%	-16.3%
インド	USD/INR	71.38	73.7725	3.4%	インドSENSEX30種	41253.74	38067.93	-7.7%	-10.7%
インドネシア	USD/IDR	13866	14880	7.3%	ジャカルタ総合	6299.539	4870.039	-22.7%	-28.0%
韓国	USD/KRW	1155.84	1170.17	1.2%	韓国総合株価	2197.67	2327.89	5.9%	4.6%
マレーシア	USD/MYR	4.091	4.1565	1.6%	ブルサマレーシアKLCI	1588.76	1504.82	-5.3%	-6.8%
フィリピン	USD/PHP	50.655	48.489	-4.3%	フィリピン総合	7815.26	5864.23	-25.0%	-21.6%
シンガポール	USD/SGD	1.3459	1.3654	1.4%	シンガポールST	3222.83	2466.62	-23.5%	-24.6%
台湾	USD/TWD	29.991	29.019	-3.2%	台湾加権	11997.14	12515.61	4.3%	7.8%
タイ	USD/THB	29.705	31.597	6.4%	タイSET	1579.84	1237.04	-21.7%	-26.4%

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 実質実効為替レート(REER)の1994年以降の平均からの乖離(2020年8月時点)



■ 実質GDP成長率

	2018Q4	2019Q1	2019Q2	2019Q3	2019Q4	2020Q1	2020Q2	2018	2019
	(前年比%、*前期比年率%)							(前年比%)	
先進国									
米国*	1.3	2.9	1.5	2.6	2.4	-5.0	-31.4	3.0	2.2
日本*	2.3	2.8	1.6	0.2	-7.0	-2.3	-28.1	0.3	0.7
ユーロ圏	1.1	1.5	1.2	1.4	1.0	-3.2	-14.7	1.9	1.3
英国	1.2	1.7	1.3	1.0	1.0	-2.1	-21.5	1.3	1.5
豪州	2.2	1.7	1.6	1.8	2.3	1.6	-6.3	2.8	1.8
カナダ*	1.0	1.2	3.2	1.1	0.6	-8.2	-38.7	2.0	1.7
エマーシングアジア									
中国	6.5	6.4	6.2	6.0	6.0	-6.8	3.2	6.7	6.1
香港	1.1	0.7	0.4	-2.8	-3.0	-9.1	-9.0	2.8	-1.2
インド	5.6	5.7	5.2	4.4	4.1	3.1	-23.9	8.0	8.3
インドネシア	5.2	5.1	5.1	5.0	5.0	3.0	-5.3	5.2	5.0
韓国	3.1	1.8	2.1	2.0	2.3	1.4	-2.7	2.9	2.0
マレーシア	4.8	4.5	4.8	4.4	3.6	0.7	-17.1	4.7	4.3
フィリピン	6.4	5.7	5.4	6.3	6.7	-0.7	-16.5	6.3	6.0
シンガポール	1.1	1.0	0.2	0.7	1.0	-0.3	-13.2	3.5	0.7
台湾	2.0	1.8	2.6	3.0	3.3	2.2	-0.6	2.8	2.7
タイ	3.8	2.9	2.4	2.6	1.5	-2.0	-12.2	4.2	2.4

(注)インドの年間成長率は会計年度(4~3月)。

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 失業率

	20/01	20/02	20/03	20/04	20/05	20/06	20/07	20/08	2018	2019
	(%)								(%)	
先進国										
米国	3.6	3.5	4.4	14.7	13.3	11.1	10.2	8.4	3.9	3.7
日本	2.4	2.4	2.5	2.6	2.9	2.8	2.9		2.4	2.4
ユーロ圏	7.4	7.3	7.2	7.4	7.5	7.7	7.9		8.2	7.6
英国	3.9	4.0	3.9	3.9	3.9	3.9	4.1		4.1	3.8
豪州	5.3	5.1	5.2	6.4	7.1	7.4	7.5	6.8	5.3	5.2
カナダ	5.5	5.6	7.8	13.0	13.7	12.3	10.9	10.2	5.8	5.7
エマーシングアジア										
中国			3.7			3.8			3.8	3.6
香港	3.4	3.7	4.2	5.2	5.9	6.2	6.1	6.1	2.8	2.9
インドネシア		5.0							5.2	5.2
韓国	4.0	3.3	3.8	3.8	4.5	4.3	4.2	3.2	3.8	3.8
マレーシア	3.2	3.3	3.9	5.0	5.3	4.9	4.7		3.3	3.3
フィリピン	5.3		17.7				10.0		5.3	5.1
シンガポール			2.4			2.9			2.1	2.3
台湾	3.7	3.7	3.8	4.1	4.2	4.0	3.9	3.8	3.7	3.7
タイ	1.1	1.1	1.0	2.2	1.9				1.1	1.0

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 消費者物価上昇率

	19/12	20/01	20/02	20/03	20/04	20/05	20/06	20/07	20/08	2018	2019
	(前年比%)									(前年比%)	
先進国											
米国	2.3	2.5	2.3	1.5	0.3	0.1	0.6	1.0	1.3	2.4	1.8
日本	0.8	0.7	0.4	0.4	0.1	0.1	0.1	0.3	0.2	1.0	0.5
ユーロ圏	1.3	1.4	1.2	0.7	0.3	0.1	0.3	0.4	-0.2	1.8	1.2
英国	1.3	1.8	1.7	1.5	0.8	0.5	0.6	1.0	0.2	2.5	1.8
豪州	1.8			2.8			-0.3			1.9	1.6
カナダ	2.2	2.4	2.2	0.9	-0.2	-0.4	0.7	0.1	0.1	2.3	1.9
エマーシングアジア											
中国	4.5	5.4	5.2	4.3	3.3	2.4	2.5	2.7	2.4	2.1	2.9
香港	2.9	1.4	2.2	2.3	1.9	1.5	0.7	-2.3	-0.4	2.4	2.9
インド	7.4	7.6	6.6	5.8	7.2	6.3	6.2	6.7	6.7	4.0	3.7
インドネシア	2.6	2.7	3.0	3.0	2.7	2.2	2.0	1.5	1.3	3.2	2.8
韓国	0.7	1.5	1.1	1.0	0.1	-0.3	0.0	0.3	0.7	1.5	0.4
マレーシア	1.0	1.6	1.3	-0.2	-2.9	-2.9	-1.9	-1.3	-1.4	1.0	0.7
フィリピン	2.5	2.9	2.6	2.5	2.2	2.1	2.5	2.7	2.4	5.2	2.5
シンガポール	0.8	0.8	0.3	0.0	-0.7	-0.8	-0.5	-0.4	-0.4	0.4	0.6
台湾	1.1	1.9	-0.2	0.0	-1.0	-1.2	-0.8	-0.5	-0.3	1.4	0.6
タイ	0.9	1.1	0.7	-0.5	-3.0	-3.4	-1.6	-1.0	-0.5	1.1	0.7

(注)豪州は四半期データ。

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 経常収支

	2018Q4	2019Q1	2019Q2	2019Q3	2019Q4	2020Q1	2020Q2	2018	2019
	(対GDP比%)							(対GDP比%)	
先進国									
米国	-2.2	-2.3	-2.4	-2.4	-2.2	-2.2	-2.6	-2.2	-2.2
日本	3.5	3.6	3.5	3.4	3.6	3.6	3.1	3.5	
ユーロ圏	3.1	3.0	2.5	2.6	2.7	2.4	2.4	3.1	2.7
英国	-3.7	-4.5	-4.7	-4.9	-4.3	-3.6	-2.8	-3.9	
豪州	-2.1	-1.7	-0.8	0.1	0.6	1.2	1.8	-2.0	
カナダ	-2.5	-2.6	-2.3	-2.4	-2.0	-1.9	-1.9	-2.5	-2.0
エマーシングアジア									
中国	0.2	0.7	0.9	1.1	1.0	0.6	1.1	0.2	
香港	3.7	4.3	5.0	5.9	6.1	4.9	6.0	4.3	
インド	-2.4	-2.1	-2.1	-1.6	-1.0	-0.8	0.4	-2.4	-1.0
インドネシア	-3.1	-3.0	-3.0	-2.9	-2.7	-2.5	-2.1	-2.9	-2.7
韓国	4.6	4.7	4.3	3.8	3.7	3.8	3.6	4.5	
マレーシア	2.3	2.4	3.1	3.6	3.3	2.8	2.5	2.3	
フィリピン	-2.3	-2.6	-1.5	-1.0	-0.1	0.3	1.5	-2.3	
シンガポール	17.2	16.9	17.3	17.0	17.0	16.7	16.1	17.2	17.0
台湾	11.6	11.0	10.9	11.3	10.6	10.6	11.2	11.6	10.6
タイ	5.6	5.1	5.1	6.2	6.8	6.2	5.7	5.6	

(注)インドの年間経常収支は会計年度(4~3月)。

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 世界の政策金利

		現在 (%)	政策転換期		最近の政策変更		直近の政策動向	
			日付	水準 (%)	日付	変更幅	日付	決定事項
先進国								
米国	FFレート誘導目標	0.00-0.25	緩和: 2019/7/31	2.25-2.50	2020/3/15	-100bp	2020/9/16	現状維持
日本	無担保コール翌日物金利	0.10	緩和: 2008/10/30	0.50	2010/10/5	0-10bp	2020/9/17	現状維持
ユーロ圏	主要リファイナンスオペ金利	0.00	緩和: 2011/11/3	1.50	2016/3/10	-5bp	2020/9/10	現状維持
英国	バンク・レート	0.10	緩和: 2020/3/11	0.75	2020/3/19	-15bp	2020/9/17	現状維持
豪州	キャッシュ・レート	0.25	緩和: 2011/11/1	4.75	2020/3/19	-25bp	2020/9/1	現状維持
カナダ	翌日物金利	0.25	緩和: 2020/3/4	1.75	2020/3/27	-50bp	2020/9/9	現状維持
エマージングアジア								
中国	1年物貸出基準金利(LPR)	3.85	緩和: 2012/6/8	6.31	2020/4/20	-20bp	2020/9/21	現状維持
香港	基準貸出金利	0.50	緩和: 2007/9/19	6.75	2008/12/17	-100bp	2011/12/14	現状維持
インド	翌日物レポ金利	4.00	緩和: 2019/2/7	6.50	2020/5/22	-40bp	2020/8/6	現状維持
インドネシア	7日物リバースレポレート	4.00	緩和: 2019/7/18	6.00	2020/7/16	-25bp	2020/9/17	現状維持
韓国	7日物レポ金利	0.50	緩和: 2019/7/18	1.75	2020/5/28	-25bp	2020/8/27	現状維持
マレーシア	翌日物金利	1.75	緩和: 2019/5/7	3.25	2020/7/7	-25bp	2020/9/10	現状維持
フィリピン	翌日物金利	2.25	緩和: 2019/5/9	4.75	2020/6/25	-50bp	2020/8/20	現状維持
タイ	翌日物レポ金利	0.50	緩和: 2019/8/7	1.75	2020/5/20	-25bp	2020/9/23	現状維持
ベトナム	リファイナンス金利	4.50	緩和: 2012/3/12	15.00	2020/5/12	-50bp	2020/5/12	-50bp

(注)インドネシア中銀は2016年8月19日に政策金利をBIレートから7日物リバースレポレートに変更

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行